5月20日（水曜日）
1970 季刊
社団法人 上田高等学校同窓会
関東支部会報
定価・一部30円

うえだ

発行所
上田高等学校同窓会関東支部事務局
発行責任者　稲垣征夫
編集責任者　坂井実雄
埼玉県川口市並木町2－11－6
矢島鋳工㈱内
電話　0482－53－2662（代表）
題字は稲垣支部長筆

第九回・関東支部大会開催

6月12日 午后5時開場

社団法人
上田高等学校同窓会
関東支部
昭和四十五年度・定期総会

初夏たけなわの季節を飾る恒例の関東支部大会は第九回を迎え別項次第により東京農林年金会館において開催する旨去る三月三十日の今年第二回幹事会にてきまり案内がおくられることになった。

大会への御案内

謹啓、深緑の候、皆様方には益々御健勝に日々お過しの御事とお慶び申し上げます。

さて、別記御案内の如く、来る六月十二日（金）に第九回関東支部大会を開催致すことに相成りました。

本会報「うえだ」の第三号刊行とともに、今大会のお知らせも出来ますことは誠に御同慶の至りと存じます。

大会は第一部を定期総会として定刻の午後六時に開会して諸項目を厳正にしてなお簡潔に消化します。

第二部は懇親会の宴として来賓の皆様方を交えて共々過ぎし日の学窓生活等をしのび語らいつつ杯をかわし愉快な楽しい会に致したいと思います。

来賓と致しましては母校より、小林学校長先生初め諸先生方、長年母校の教職にあられた左記の諸先生方もお招き申し上げるべく計画もすすめております。

◎中村　喜内先生
（大正15年～昭和6年）
◎小松　正一先生
（昭和14年～昭和26年）
◎丸山　茂樹先生
（昭和17年～昭和25年）
◎林　幸四郎先生
（昭和21年～昭和42年）

右の四先生方と同窓会本部より理事長外諸氏、更に上田市長並びに僚友高校東京同窓会代表者各位上田染谷丘高校東京同窓会よりは各期にわたる幹事の方多数をお迎え申し上げ賑々しく盛会にと計画致しております。

何卒、当日は定刻に開会致したく存じておりますので万障御繰合わせいただき、同窓各位お誘い合わせの上御出席下さいます様心からお待ち申し上げております。

以上簡略ながら今大会の御案内のことばにかえさせて頂きます。

敬具

昭和四十五年五月

第九回関東支部大会
大会準備委員一同
同窓生各位

記念品贈呈
校章、六文銭等を染めた手拭を出席者に贈呈します。

一、日時　六月十二日（金）午後五時受付開始
六時開会
一、会場　東京農林年金会館
港区芝西久保巴町三六の一
電話（432）七二六一（大代表）
一、会費　一金、千五百円也（第一期生より第五十期生まで）
一金、千　円也（第五十一期生以下）
一、道順
◎地下鉄日比谷線＝神谷町下車二分
◎地下鉄銀座線＝虎ノ門下車七分
◎国電＝新橋下車十三分

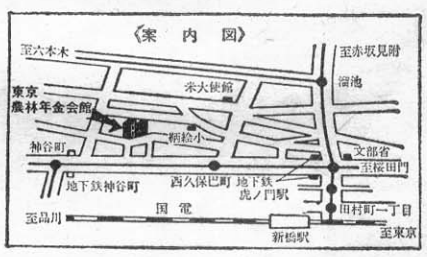
◎大会次第

第一部　定期総会（正六時開会）
司会　副幹事長（36）神野勝男
副支部長（28）坂井実雄

一、開会の辞　支部長（14）稲垣征夫
二、校歌合唱　幹事長（31）矢島五郎
三、挨拶　会計幹事（40）小林郷司
四、会務報告・事業計画　会計監事（20）吉井道教
五、会計報告
六、会計監査報告
七、質疑応答
八、第一部閉会

第二部　懇親会（来賓入場）
一、開宴の辞　副支部長（21）島田次郎
二、来賓歓迎の辞　支部長（14）稲垣征夫
三、来賓紹介
四、来賓代表挨拶
五、乾杯
六、先輩のことば　大森頼雄
七、余興
八、若き代表の声
九、万歳三唱
十、閉会の辞

以上

《案内図》


輝かしき七〇年代の幕明に当って

支部長　稲垣征夫

「一九七〇年代の展望と日本の進むべき道」という題で二十八日午後、一時間半会社の講堂で講演を行った。

二月十八日、ニクソン大統領が外交路線の大転回を行った新ドクトリンを発表したのを見て、かねがね考えていたことをこの際話してみようと考えたからである。話の要点だけでも、この少ない紙面では書き切れないが一つ二つ触れてみよう。

経済第三国としての日本は、この七〇年代にまたまた大飛躍をする。G・N・P（国民総生産量）も一九六〇年から七〇年までの十年間に四倍となり、今後十年間には三倍になる。一九六〇年の日本のG・N・Pは中国の三分の二であったが現在では、一・五倍となりこれは西アジアまでを含めたアジア全体…世界人口の半数以上の人が住んでいる……と同じになっている。一九七五年には鉄鋼の生産量は一億五千万トンとなり、世界一の生産国、世界一の輸出国となり、「世界経済は日本を中心として回る」ようになり、海に輝かしい時代に突入するが「楽あれば苦ある千両箱」で、これに伴う経済大国としての世界平和に寄与する責任は極めて重大になってくることを覚悟せねばならない。

米、ソ連、中国は世界超大三国であり、この三国のドマンナカに位置しておるのが日本であり、その日本が、この三国を如何にして接近させ、仲よくさせ、日本、アジア、世界の平和を確立するかが日本の進むべき道である。

これは日本の国内体制さえとのえば、実行はそれほど面倒の問題ではない。その国内問題には、国防、治安、物価、公害、交通、住宅その他沢山あるが、一番大切なことは日本人が自主独立の国民精神を確立することである。みんなが考えねばならない問題と思うが米国の未来学者ハーマン・カーンは「二十一世紀は日本民族の世紀である」といっている。そうなるだろうし、そうしなくてはならないが「エコノミック、アニマル」と冷称されているようでは日本民族の世紀どころか世界中の人びとからけ落される。「ヒューマン」にならなくてはならない。それは学校乃至社会教育の問題だ。日本人の根性をいかに正しくし、いかに鍛えあげるかが何より大切な根本問題だ。教育については本年が悪い方の山となるだろう。今まで二十五年かかってここまできたのだから、今後二十五年かかねば本物にはならないだろう。一九九五年になる。そのくらいの覚悟で真剣に取り組まなくてはならないと思う。

わが関東支部も幹事はじめ皆さんのご協力で、日本全体と同じように輝かしい七〇年代に突入した。そして嬉しいことに、われわれ同志はみな「ヒューマン」で「アニマル」はいないということだ。

本年正月、第一回の幹事会がひらかれ、出席幹事も六拾有余名、盛会まことにきわまりなかった。去る三月末には第二回目の幹事会開催、来るべき第九回関東支部大会や第三号の会報「うえだ」発行計画について真剣な協議がなされた。出席も六拾二名、益々本会の盛会込進の年でもあることを痛感させられた次第である。これほど充実した幹事会そして関東支部会を私はお互が大切に守って行かねばならないと思う。

会員皆さん方の第九回大会への御出席を心して幹事一同と共におお待ちしています。

さあ、皆さん、手をたづさえて楽しく前進しましょう。

▲おねがい▼

(一) 会場準備の都合と当日配布用の「本日出席者氏名一覧表」作成のため、同封のハガキに摘要記入のうえ出欠を明記されて六月五日までに必着のよう御返信下さい。（欠席者も返信を）

(二) 受付で記名票（出身地・卒業期氏名が記入されている）をお受取りのうえ、胸ポケットにおつけ下さい。この記名票作成のためにも早目に必ず御返信下さい。

(三) 第一部では出身地別のテーブル、第二部では卒業期別のテーブルにおつき下さい。

(四) 出身地別のテーブルは、
◎旧上田市内　◎上り汽車方面
◎川西地区　◎下り汽車方面
◎東北地区　◎丸子地区
とします。

(五) 記名票の色別は、
◎第一期より第十五期　紫色
◎第十六期より第三十期　青色
◎第三十一期より第五十期　黄色
◎第五十一期以下　桃色
とします。

真田氏紋所六文銭について

第一回卒　小泉清見

表題について前号で源平盛衰記と加沢記の二説を記しましたが、ここに高野山古義真言原宗徳院蓮華定院居住、布教師織田啓佑師の所説を述べます。

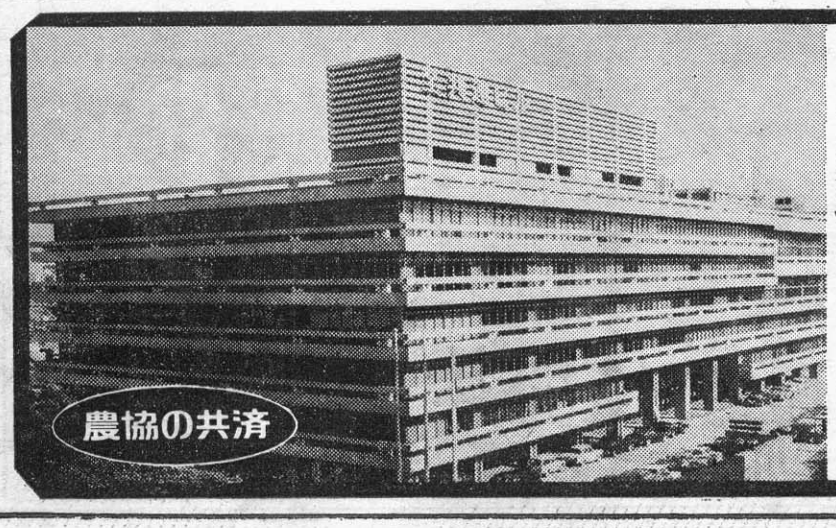
同師は真田氏の紋所六文銭は六道の辻銭に起因しているとこの説私には最も信憑すべきものと考えられます。蓮華定院住職添田隆俊師は六文銭とは地獄、畜生、餓鬼、人天、阿修羅の六種を救済するために六観音、六地蔵を立て六道勧化の救主となす。

地獄の三途川の川辺を六道の辻とも六巷（ムツノチマタ）とも云い、これを渡河する代価が六文銭なると云うより死者の柩内に入れる紙銭を六道銭に当てるものと云うなり。以上私のために御示教下さいました。深く謝意を表します。（母校元教諭）

▽編集部より

小泉先生には御伏床の御体にも拘らず本会報のために御不自由をおされて、再度の有意義な御寄稿を下され一同非常に感激し居りますとともに厚く御礼申し上げます。

六文銭の意義由来を詳細に御教示頂け御陰様にて平素大多数の者が六文銭を「偉人の紋」、「我等が先祖幸村公の紋」と体する誇りや憧れ等の気心のみにて漠然と見て居たと思われますが、これからは内容の充実した誇りと憧れをもって六文銭を仰ぎ掲げてまいれますことを重々御礼申し上げ先生の一日も早き御平復を一同心から御祈り致し今後共多々御教示頂きたく御願い申し上げます。



ご家庭の保障と繁栄を願って——
躍進する農協の共済

全国共済農業協同組合連合会
会長理事
東京都千代田区平河町2丁目7番地

会務報告

昭和四十四年度

幹事長（31期）　矢島　五郎

一月一日　（七）清水菊三支部長長御逝去
一月十一日　故清水支部長御葬儀幹事参列
二月七日　（八）勝俣総顧問を御見舞う。幹事代表（31）矢島（40）小林
二月十八日　本年度第一回幹事会（十四）稲垣征夫氏本会第三代目支部長に推せんされ御就任、会報及び年会費の件を議す
三月九日　（8）勝俣顧問御逝去
三月十七日　（8）勝俣顧問御葬儀、幹事参列
三月十九日　長野県高校同窓会連合会、評議員会あり、（14）稲垣支部長　（31）矢島幹事長
三月三十日　依田誠先生の胸像除幕式挙行（母校同窓会館）　稲垣支部長、矢島幹事長出席
四月十一日　会報創刊号について編集会議、正副支部長、外編集委員一同にて協議
四月十五日　第二回幹事会（会報及び第八回大会の件）
五月二十五日　本部における同窓大会開催さる　稲垣支部長、矢島幹事長、花岡幹事出席
五月二十六日　母校訪問、在校生に会報創刊号贈呈、生徒代表十数名と懇談す、染谷丘高校にて開催中の同校同窓会幹事会に出席挨拶
五月三十一日　長野県高校同窓会連合会、春季総会に出席、（14）稲垣、（31）矢島（35）花岡、（50）半田、（55）成沢
六月三日　松商学園京浜同窓大会に招待出席す　（31）矢島（36）神町
六月十日　第三回幹事会、会報配布説明、外、報告、第八回大会役員及進行方策を議す
六月十三日　第八回関東支部大会開催、盛会に無事終了、感激も新らたにいうことなし
六月二十七日　松本深志高校東京同窓会に招待出席す（31）矢島
七月八日　第四回幹事会（第八回大会の反省会となす）　幹事各位の諸反省意見あり、本日監事二名選定の議あり、（9）古松国幹氏（20）吉井道教氏御就任さる
九月十七日　第五回幹事会、第二号会報編集の件、幹事有志による親睦旅行計画を議す。恩師各位を特別会員とするの議案可決各期の名簿充実を期す
九月二十九日　長野県高校同窓連評議員会。（31）矢島出席
十月十二日　上田染谷丘高校同窓会東京大会に招待出席す、（14）稲垣（31）矢島（47）牧内（50）半田
十月二十四日　第二号「うえだ」最終編集会議、委員一同徹夜して完了す、誠意熱情の士なり
十一月十二日　支部会報「うえだ」第二号完成発行
十一月十四日　第六回幹事会、第二号「うえだ」編集報告、母校訪問と幹事親睦旅行を議す
十一月十六日　幹事親睦旅行に出発、総員十九名（旅行記参照）
十一月十七日　母校訪問、会報贈呈（旅行記参照）

結び・

遅言波瀾多かりし年なりき、清水支部長、勝俣顧問をその年頭に失い悲嘆禁じ得ず、よき大先輩のみたまを安かれと祈るのみにてありし。待望の本会々報「うえだ」創刊号誕生す。寄せられし全幹事諸氏の激励協力、会員諸氏の感激の讃辞幾多。編集委員一同の努力に多謝あるのみ。

第八回大会も和気満堂にみちて遠き日の青春の血、再燃し意気天をつく。

僚友各校の同窓会との交流よりやくに熟す、次号四号に詳細報告を約さん。中にも上田染谷丘高校東京同窓会との交誼深かまり、今後の親交を約せるは嬉し。

第二号会報も無事発行、徹宵につくせし編集委員の誠意尊し。

本会初の幹事親睦旅行心楽しく無事終る。君よ君、次回は是非に顧みて多事なりし年なりき、さあれ上田健児の意気益々旺んなるは頼母しき限りなり、特くに若き期の幹事諸氏、ようやくに心打とけて誠心協力の実をあげられしは最大のよろこびとなす。（以上）

四十五年度「事業計画」

一、四月　第九回関東支部大会（定期総会）の計画。第三号「うえだ」編集委員兼大会準備委員会開催
一、五月、第三回幹事会開催。会報第三号発行。
一、六月　第四回幹事会開催（大会打合会）。第九回関東支部大会開催。
一、七月　第五回幹事会開催（第九回関東支部大会反省会）
一、九月　第六回幹事会開催（会報第四号発行計画）
一、十一月　第七回幹事会開催。会報第四号発行。本会員有志による親睦旅行計画
一、「上田高等学校歌集」編集の計画並びにその販売計画。
一、「関東支部歌」製作の計画
右二項は全幹事会を通じ協議。

以上

〈交〉〈歓〉

上田染谷丘高校
東京同窓会幹事長　黒田みすゞ

一月二十九日夜、農林年金会館で催された、貴支部の本年初の幹事会を兼ねた新年会に、当方幹事もお招きに与り、佐藤会長以下十名が同席させて頂きました。

受付で御挨拶していますと、支部長様自らお出ましになり、傍らのソファーへと導いて下さって、恐縮している私達に「今日はお嬢様方の接待をせいといわれて、わしはもう一時間も前から来ている」といって笑わせ、又そそくさと出迎えに立って行かれます。お嬢様とは！　恐れ入ります。やがて八十名近いお顔も揃い、白布に覆れ綺麗に飾られたテーブルに着席し、密かにあたりを見回しても、どなたも見覚えもない立派な紳士ばかり。さて支部長様の威厳ある年頭の挨拶に始り、次々と議事はスピーディーに、滞りなく終り、これより宴会という段になって私達はあちこちのテーブルに分散させられ、何とはなし心細い気分でいますと、早速隣の方が声をかけて下さったので、二、三お話をして胸の名札を拝見しますと、偶然とはいい乍ら、私の遠縁の方で殊さんとは同級の間柄。上田育ちの私はやがて、小学校の先輩や、兄のお友達にも何十年ぶりに巡り会い、それまで偉りてこられた猫の心境だった私も急に心が和んで、はては初対面の方々とも十年の知己のように親しくお話して気がつくと手の中に何枚もの名刺を頂いていました。大都会の中の孤独が問題とされることなど嘘のように此処では男も女も何と和やかに、寛ぎを共にしていることでしょう。宴はまさに酣となり、ステージでは渋い喉を聞かせる人、自慢の手品を披露する人、遂には皆の大合唱。合間合間に入る大向うの合の手に、会はいやが上にも盛り上っていきます。

こうして和気藹々と歓を尽す皆様の中に、私は女の世界では真似の出来ない、数々のたえまざる、しかも巧みな演出を見出して、感心し、羨ましくなってしまいました。当方の次の会合には、より多くの貴会員をお招きしたいと念願しつつ、拙文を以って御礼の言葉に代えさせて頂きます。序で乍ら、染谷丘は、そめやが丘、そめがや丘、とも読めますがそめやおか、を校名としていますので紙面をお借りして申し添ます……。

世界の中の日本人

衆議院議員　松平　忠久

私は東京外語を卒業して直ぐに満州へ飛び出していったが、もう少し学問をしたくなり外務省の留学生として嶺南大学（広東）に二年、北京大学に一年留学した。嶺南大学では日本人は私一人であり、寄宿舎にいたので、数多くの友人が出来、その中には今でも交際を続けているものがある。その後高文外交科の試験を受け、米国に渡り、ミシガン大学に一年程留学した。

爾来ワシントン大使館の外交官補をふり出しに各地に在勤し終戦までに二度外務本省詰めになったが、合計すると戦前に十五年程海外生活をしたことになっている。

戦後、外務省を途中でやめ、長野県副知事、二十八年に衆議院議員に当選してから、昨年迄の間に八回海外に出張派遣され相当らず海外とは縁の切れない生活をしている。

そこで外から日本を見るせがつき、日本人の短所が目につき易くなってしまったが、この間には私自身の失敗もあり、それらを織りまぜて紹介してみたいと思う。第一は One Japanese is Silent という批判である。これは日本語が欧州語とは全然違った文法を持ち語源も全く違っており、日本人は外国語が不得意であって、ホテルの食堂などでも片すみの方で黙々と食事をしているような人が多く、こう云う批評が出たのであるが、他のもう一つの理由は、実は語学ではなく、日本人は交際べたなどと云うことを意味しているものと思う。

事実上田から東京へ来る汽車の中でも、知らない人が隣りや前にいると、一言も口をきかずに上野まで着いてしまうことがある。敵同志が同席しているようで誠につき合いが下手なのである。又日本の教育では、義務教育でも、交際のことを少しも教えない。戦前は縦の道徳を教えたが、今は教えないし、民主主義に必要な交際のための横の道徳についても教えず、全く無関心である。これが誤解を招く原因ともなっている点ではないかと思う。

第二は Two Japanese are smiling という批判である。外人からみると、日本人が二人になると笑ってばかりいると云うのである。事実私も外人と話をするときに「どうして笑っているの」とか「何がおかしいの」とか聞かれたことがよくある。事実日本には「つくり笑」とか「苦笑」とか「笑でゴマ化す」とか、いろいろな笑方がある。封建時代の感情を顔に現わさない教育訓練が、今いって残っており「笑うべからざるときに笑う」癖が誤解を招く原因となっている。

感情をそのまま正直に出すのが自然であり、国際的に通用する姿勢ではなかろうか。

第三は、私の経験であるが、私がアメリカ人の家庭に下宿していたとき、そこに四、五才の男の子がいて、よく外で仲間と喧嘩して泣いて帰って来るとき、自分の子供の方が悪いと判断した場合には「お前の方が悪いのだからあやまって来なさい」と教育するのである。正、不正を救えかつ実行させるのである。この点が日本人にはなく、社会正義に欠け、今では「儲け主義」一方で蹂んでいるので、エコノミック・アニマルなどと悪名をうけているのはないだろうか。

この小さな領土と貧弱な資源の上に生活する日本人は、勤勉であり、能力も中々すぐれたものをもっているが、平和の中で世界に依存しなければならない運命をもっているのであるから世界の人々から誤解されないように、世界の人々から好かれるような性格の持主になるように努力し、そのような国際人を造るよう制度的検討を加えることが緊急事であろうと思い、愚見を申し上げた次第。（21期）

十四期の同級会

吾々十四期生は、今を去る五十余年の昔大正四年の卒業である。入学の時は身長順に甲丙乙丁と四組に分れ、約一六〇名であったが卒業する際には、その半分甲乙二組であって、約八〇名であった。それが久しい間疎遠であったのが在郷有志の斡旋で卒業五十一周年の昭和四十一年秋に、上田高校同窓会館に於て久振りの同窓会が開催された夏、全国各地から参集して、十五名の出席者があった。八〇名の卒業生中約半数が亡くなられているので物故者の慰霊祭と懇談会とを兼ねて会食して散会した。

昭和四十三年には東京で開催する事にしたので同級会の後半を関東支部大会に合流する計画を樹て会場を関東支部大会と同一の麹町会館の別室として、開会時刻を早めて、正午より開催する事としたが夏、在京者は勿論のこと地方からも参集して、十三名出席して昔語りに花を咲かせた。懇親会の後ホテルオオタニの展望台に於て、東京見物を終り夜の関東支部大会に合流出席した。

昭和四十四年即昨秋の同級会は在郷幹事の世話で、別所温泉和泉屋にて、開催した集る者十一名、在郷幹事は地元の豪家村山兼人君上田の名教育家塩沢隆平君、細田延一郎君、小諸から掛川豊太郎君遠方からは神戸の松沢兼人参院議員、岡谷から宇野和君東京からは稲垣征夫君夫妻、一族話題の豊富な岩崎丈雄君、上尾市から定連の坂口勇君、荻原貞雄等で、昔の童心に返って、夜の更くるまで語り合った。

船七十路を越して、上田高校卒業五十四周年の同級会に健康で出席し、旧友と語り合える事は望外の幸であり、上田高校同窓会関東支部と共に我十四期同級会の幸あれと希ふものである（14期・荻原貞雄・荻原建築設計事務所代表取締役）

新年度（四十五年度）の関東支部年会費納入について

一、昭和四十四年度より当支部年会費を、一金参百円也と決定致し、
昨四十四年度より御納入戴いて居りますが、昭和四十五年度を迎えまして、新年度の会費を納入して戴き度いと存じます。
尚昭和四十四年度分年会費を未納の方は、新年度分と併せて納入下されば倖せです。
一、年会費納入につきましては、同封の振替用紙（千代田区神田局区内神田鍛冶町三の三小林事務所内上田高等学校同窓会関東支部振替加入者口座番号東京三一八三九番（TEL（二五二）八八〇一）二番を御利用下さい。
尚恐れ入りますが、整理の都合上、年度及び卒業回数を御忘れなく御記入下さい。
一、年会費を納入下さいました会員に対しまして、当会々計より領収書を折返し御送付申し上げます。
本会の発展の基金として切に御協力の程願い上げます。

昭和四十五年五月
会計幹事　小林郷司
同　牧内　操

RAINBOW FINE SOCKS ★ TOKYO KUTSUSHITA K.K.
レインボー

東京靴下株式会社
代表取締役　北原　直武　　顧問　松平　忠久（21回）
本社　東京都千代田区九段北1丁目15番15号　TEL 03（265）5131（大代表）
大阪営業所　大阪市都島区中野町1丁目3番22号　TEL06（352）2431～3
長野第1工場　長野県更埴市稲荷山町626番地　TEL 02627(2)1232・1463
長野第2工場　長野市篠ノ井塩崎字上縄手130番地の1　TEL 02628(2)2140(代)
横須賀工場　神奈川県横須賀市本町1番地　TEL 0464（23）1811(代)
〔同窓者〕
取締役販売部長　小松　隆（42回）
小松　恒弥（49回）　大久保　正寿（53回）
橋詰　恒夫（51回）　岡村　潔（57回）

建築設計監理
株式会社　荻原建築事務所
代表取締役　1級建築士　荻原　貞雄（14回）
東京都杉並区阿佐谷南1－46－12　荻原ビル3階
電話　311－5085

弁護士　渡辺　卓郎（40回）
渡辺卓郎法律事務所
東京都千代田区内幸町1－3－1　幸ビル1階
電話　（591）0571～2

八日堂の想い出

朝は観音、夕は薬師

今でも行われている上田市郊外の国分寺薬師堂即ち八日堂のお祭は老年となった今日でもなつかしく想出されるのである。　八日堂のお祭は毎年一月七日の夜から八日の朝にかけて行われるお祭で、このお祭には上田市の近郷近在から沢山の人々が、国分寺の薬師堂に参詣するので大変賑やかなお祭である。このお祭には参道の両側に参詣人を当て込んで、色々の売店が立並んで八日堂の市を開く。又「朝観音に夕薬師」と称し一月七日の夕方から夜半にかけて国分寺の薬師堂の参詣を済ませた人々は、そこから別所温泉に行き、北向観音堂に参詣するを例としていたので、一月八日の暁から朝にかけて是等の参詣人の行列が、上田から別所に行く別所街道に続いており、大変混雑していたことを覚えている。

八日堂の市には達磨、蘇民将来鳥田楽、其の他色々の売店が開かれ、盛んに参詣人を呼び込んでいた。達磨は群馬県高崎市在の小林山達磨寺附近の農民が副業として運んで来て達磨市を開くのである。十銭単位の貨幣価値の当時なら万単位の呼び値で売買されているのを見て、子供心にも大変驚いた。こに八日堂の達磨市は八日堂を過ぎると松本市に移動し、一月十日の松本市に行われる飴市（昔は塩市と称す）に於て開かれるを例とした。蘇民将来は柳の木を六角に削った木二品で其の大きさは丁度、こけし位で大小様々があり其の六角面に大福、長者、蘇民将来、子孫、人也と二字宛識されている。昔はこの蘇民将来を製作する家及びこれを売る店の位置順序等は、国分寺村の中諸ある家柄に限られていたということである。この蘇民将来はこの外宮城県地方でも製作されていると聞いているが全国的に珍らしい民芸品と称されている。

蘇民将来の由来に就ては次のような伝説がある。即ち、太古神代時代の頃、大国主命が出雲地方を巡遊されていた時、ある日の夕暮道に迷泊る所を探してある地方に行ったところ、そこに広大な邸宅があったので、一夜の宿を乞うた。その邸宅の主は巨蘇将来という長者で大国主命が乞食のようなみすぼらしい風体をしているのを見て、お前のような乞食に宿を貸すことは出来ないと素気なく断ったので大国主命は仕方なく、とぼとぼとした足取りで、村離れの方へ行ったところ、そこに一軒の貧しい家を見つけ一夜の宿を乞うた。その家の主は、蘇民将来といって、長者巨蘇将来の弟で大国主命に対して「御覧のように貧乏の家で充分のおもてなしもできないがよろしかったら御泊り下さい」と招じ入れ親切にもてなした。翌朝大国主命は、その家を辞去する時昨夜の御礼として一箇の護守を蘇民将来に渡し「近い将来にこの地方に悪疫が流行してこの地方の者は一人残らず死絶えることになる。この護守を身の輪の中に入れて門口に吊しておくとお前の家丈はその災厄を免れ生き残ることができる」といい置いて立去った。その後、果して大国主命の予言通りその地方に悪疫が流行して巨蘇将来を始としてその地方の者全部死絶えてしまった。独り蘇民将来の家の者は護守の御陰で生き残ることができ、爾来、後々財産ができ、その地方の大福長者となったという。その後、その地方の住民は各戸の門口に大福長者蘇民将来の子孫の者であると識した木札を掲げておくと、疫病その他の災厄を免れ幸福に暮すことができると伝えられている。

以上の由来により八日堂の参詣人はこの蘇民将来の木二品を買受け家に持ち帰りその門口に掲げて置く慣習となった。

鳥田楽は八日堂の夜店で売っており確か一串弐銭位だったと思う。大してうまいとは思わなかったが、寒い山国独特の田楽で誠に捨て難い珍味であった。その後にこの鳥田楽は上田から姿を消してしまった由であるが、近年上田市の有志の方々がこの鳥田楽を復活したと聞くが、若し今でもあるならば上田市へ帰郷して、之を賞味してなつかしい鳥田楽の味を偲びたいと思っている。（13期・馬場友義・信和紡績㈱取締役会長）

上田高校 在職中の想い出

母校元教諭　林　幸四郎

過ぎたことは美しく心にのこるもので四季の校門付近の堀端の景色はまた格別である、榉の大ぼくに春雪が朝日に光っている姿をスケッチした思い出、紅葉のころ白い土塀を画面いっぱいに描いているとセルリヤンの空に心も吸い込まれた思い出など、生徒と野外でスケッチをしたことが思い出される。

強く印象に残っているのは二十一年二月赴任した翌日の第一回の大火である、卒業生皆さんの方で新築されたばかりの美術教室を少しも私は使わないで美術の松橋先生（故人）と火災のなかを美術全集や教材を取り出したが、雪と水で濡れて使えなくなり、教室は全焼してしまった。

校舎の新築される間一年生は公園下の県職業訓練所の教室を借りて工作で肩巾の座机を作らせて床にすわったままの授業を続けた。

晩秋のころ薪積の上で角力をとり付近の農家のおやじさんに怒鳴り込まれて生徒をつれ謝りに行ったこともあった。

中沢校長先生のころ、運動場の角で食糧の大豆や葱を作っていたのをやめて運動場の暗渠を寒風の中職員、生徒全員で小石をふるいだして作ったことや当時は下駄ばきで運動場に入る生徒もなく裸足で放課後先生もまじえて野球のクラスマッチがおこなわれたりした。

木村監督を迎えて野球が盛んになり甲子園出場の年には前後八回位松本へ応援に自動車を連ねて青木峠を土煙りをあげ応援歌を歌いながら通ったものだ。

甲子園に出場のときは中部日本新聞社の依頼で選手諸君の生活を毎日一枚描いて短文を入れ新聞社に送ったこと早期はじめて甲子園球場で練習したときのことは深い印象にのこっている、大きな火口の底で練習をしている思いであった、この年は運動も進学もすばらしく何か新しい上田松尾高校が誕生した年でもあり良き思い出である。

その他に芸術研究室の鬚の小林先生と今は亡き温厚の兎束先生、若いところで金子、永井両先生のことなどや兎束先生のお宅で野球の木村先生に事務室の平林先生も加わってペートーベンの第九を聞きながら談を深くしたときのことなど思い出は際限なく広がるものだ。（本州女子短期大学助教授）

おらが信州弁

野沢北高校同窓会（岳南会幹事）吉岡　敏郎

田舎を出て幾年かしますと、いろいろの環境の中に生活する故もあって田舎弁もだんだんに薄れていくものです。

ところが不思議なもので、たまに墓参なぞで帰省した際、ふるさと近く村の人達と行き交う時"おはようごわす""こんちわ"と田舎弁が何の抵抗もなく出てしまい時には、わが子に笑われる。こんな経験は皆様もきっとおもちだと思います。ふるさとの山河に接した時、すべてが昔にかえるとでもいうのでしょうか。

終戦後、ずっと東京生活を続けている私ですが、現在の職場に入って三年余り、信州から出て来るお客さん達も多く、懐しい信州弁と申しますか佐久弁と申しますかそうした人達と話し合うとき、やっぱり田舎弁を使うほうが親しさも出てきて話しもはずむといったために再び田舎弁に戻ってしまい従業員に対して「この商売にいる者はことば使いはていねいに…」なぞというのにいささかこそばいものを感じる次第です。

そんな時にご縁あって、いろいろお世話になっているのが貴会の矢島幹事長さんでした。お陰様で上田の皆様の役員会だ、編集会議等々にご利用いただき、存じ上げている方々も多くなってきております。もともとその昔、私は千曲寮にいたことがあり、亡くなられた勝俣先生にもお世話になり貴会の鳥田副会長、野球部O・B会の片岡会長等の方々は千曲寮の先輩としてお世話になっております。

その矢島先生に接してます気のつくのが前述の懐しき田舎弁を多用されることでした。そして、それが何のケレン味もなく実にみごとに使っていられることです。貴同窓会が活発に活動されていることは誠にうらやましく拝見しているのですが、これは支部長さんはじめ幹事長、副幹事長等々中心になって、旗を振られる方々の熱意の結晶と思います。その副幹事長の神野さんがまた矢島先生と名コンビで、同じく田舎弁をタクミに多用され会を牛耳っていられます田舎弁の多用は人々を懐しき学窓時代に引戻すのではないかと考えたことでした。

ところがその幹事長の矢島先生が、先般分家である野沢より二大臣（井出郵政大臣、小林法務大臣）が出席されたことに対する有志の就任祝賀会において願い祝辞を一席述べていただきましたところ、分家の連中の集りに向って、得意の信州弁をもって、野沢高校がんばれとハッパをかけられた怒声のような激励のおことばは人間矢島五郎のトレードマークだと感じたのでした。（八峰閣常務取締役）

ご発展を祝う

東京三吉会　清水　信元

社団法人上田高校同窓会関東支部及び会報うえだの目ざましいご発展を心から、お祝い申し上げます。

幹事長矢島御大から、上田に籍をおく僚友校だ、何か一筆をとキツイご連絡。成程いわれてみると私は上田東高校同窓会に籍を持つので、うえだと聞けば懐しさが込み上げてくるのである。

それは私の青少年時代を上田で過したからだ。今でも真人の会合などに出ると必ず謳われる県歌、「信濃の国」に出てくる、いにしえの偉人、信玄の多恵姫を母にもつ戦国の武将、信長と家康の連合軍を迎え討って勇かんに戦い高遠城で自刃した猛将仁科五郎信盛、また明治維新の先覚者で惜しくも京都で暗殺された松代の象山佐久間先生、とりわけ元上田中学の田中常憲先生作詞の「信州男児」に謳われる「亡君の遺子を手にささげ、雲なす大軍打払い、誠忠孤剣をひっさげて、難波の華と散りにける、千古まれなる大傑士、幸村この地に育ちたり」はとても懐しい思い出の歌である。

同級の猪坂直一著真田三代録や上田城に詳述されている通り、天下分け目の関ヶ原の戦に石田三成に加担した真田昌幸父子が徳川秀忠勢を上田に釘付けにし一歩も進ませなかった上田城七本槍の激戦は聞くも語るも勇ましいものである。六紋銭の紋所は実に偉いものであった。

私は上田へ行くと公園に在る三吉米熊先生の銅像の前に佇立して先生の徳を仰ぐのである。先生は満延元年六月十日長門国豊浦、今の長府市に父贈従五位三吉慎蔵氏―昨年テレビに出た坂本竜馬で有名な槍の慎蔵氏の長男としてお生まれになり、上田を終生の舞台として本邦蚕糸業界のために活躍なされ、従三位勲三等農学博士、昭和二年九月二日悲しくも髪去せられた。私が薫陶をうけた母校の初代校長先生である。

上田と聞けば上田城跡の石垣のあの巨大な石、古びた城の櫓などすぐ眼に浮んでくる。

由緒ある輝かしい歴史をかざるあなたの上田高校は大学入学率も全国抜群の成績、会報うえだも素晴らしい出来栄、矢島御大始め役員各位の熱意がうかがわれ誠に羨慕に堪えない次第である。さらにますますご発展をお祈り申し上げます。

（上田東高等学校同窓会理事）

上中生の印象

母校元教諭　丸山　茂樹

上田高校といえば先ずあの独特な校門が心に浮ぶ。わたしが赴任したのは昭和十七年で、まだ上田中学の時代だった。校地の正面には水を湛えた堀と白壁のいかめしい高土塀が長く連なり、その中央にでんと聳え立つ古風な門は意志の弱い人間を拒絶しているかのような姿勢で立ちはだかっていた。威圧を感じた。わたしは教師としての自信が弱まるのを感じながらあえてこの門をくぐった。生徒の襟にいただく校章がまた印象の強いものであった。曲線が一つも使ってないご太い「中学」という文字が四角に意所されたでっい徽章である。この徽章をつけた生徒らは自分たちを上中俊児と呼び、高い誇りをもっていた。

わたしもかつて長中健児と呼び、特な校門が心に浮ぶ。わたしが赴任したのは昭和十七年で、まだ上田中学の時代だった。校地の正面には水を湛えた堀と白壁のいかめしい高土塀が長く連なり、その中央にでんと聳え立つ古風な門は意志の弱い人間を拒絶しているかのような姿勢で立ちはだかっていた。威圧を感じた。わたしは教師としての自信が弱まるのを感じながらあえてこの門をくぐった。生徒の襟にいただく校章がまた印象の強いものであった。曲線が一つも使ってないご太い「中学」という文字が四角に意所されたでっい徽章である。この徽章をつけた生徒らは自分たちを上中俊児と呼び、高い誇りをもっていた。

わたしもかつて長中健児と呼び、つ呼ばれつして長野で育ったので、上田でも同じように言うのだと思ったが、上中生との生活を共にし日を経るにつれて上中生の意備がわかってきた。端的に言えばそれは剛健であり活達である。校門、校章がまさにそれを象徴している。

わたしが在職したのは戦中から戦後へかけての八年間で、まことに非常の時だった。言動はもちろん個人の思考まで規制された。服従を美徳とする時代だった。やりきれないと思うこともあったがどうにも仕方がなかった。

上中生の印象

上中生の印象

上中生の印象

四十期生全員集合！

三十年ぶりの再会

四十期卒業生の同級会は毎年一回開催されており、昨年八月東京において井本公一、丸山英一、石木林が幹事で開催された。はるばる新津市から米沢敏が出席し、上田からも池田正治、小山弥吉、小山和雄、石田守、小林良一、藤森冨男、尾島正吉の常連が現れた。恩師萩原実先生と学生時代陸上競技部のマネージャーとして活躍もされた関東支部幹事長の矢島五郎先輩の出席を頂き、楽しく新宿での一夕を過した。

生存者一五五名、住所不明九、死亡三三というのが四十回生の記録であり、東京近辺在住者は五十名である。毎年夏に故郷信州で同級会を開催することになっているが、昨年は暑い八月に東京でやれという頭の狂った提言をする者が上田の住人に圧倒的に多く、前記幹事三名にご苦労をお願いした次第である。

何時の頃か常任幹事という称号をつけられた小生は全く名前ばかりで何もしないズボラな男であるが、小林郷司という大スポンサーが健在なるかぎり大丈夫である。しかし今回の幹事である井本公一たるや丁度その時に当たって、朝鮮へ逃げかくれ姿を見せず、上には上があるものだと痛感した。

よって娘を診察したことのないという名医の丸山と、税務署出身の石木の努力によって生存者一五五名が確認されたわけである。当日出席者をここに紹介することにする。浅田造、松本から何時の間にか埼玉大学へ、顔が白いが元気である。

大塚今朝信、卒業以来はじめて出席したが身体は成長しておらず小林博、小林政治、相変らずむっつり者。児玉安彦、台湾でダムを建設したとか、出張が多くて未だ子供にめぐまれない。石油からつくった肉を毎日食っているという竹内武弥。コワ先生のせがれ通信病院の名医田島玄。何の薬か分らぬが研究中だという田玉清次。三億円事件の近くに住み毎日マーケットが大繁栄の矢島信一。

原子力の研究よりも麻雀が天下一という吉田節生。卒業以来初出席の東芝の渡辺久雄が現れた次第である。

毎回通知を出しても一度も出席しない者で東京近辺では、何をしているか自営という阿形宗宏。学校であるからには教える身分である井上忠雄。佐久間勉、若林肇、和田重蔵がいる。秘密の仕事か判明しない者で片山敏。砂田辰雄。金融引締めで女房に締められておるのか小山信平。建設の宇野公。手術で手がはなせない鈴木一郎。中沢和夫。タングステンの鈴木政次。渡辺守。エログロ映画か分らぬが永井秀甫。油を搾られている中川作一郎。東京で蚕を飼う柳沢晴夫がおる。一度位は出席ありたいものだ。

長野から東京へきた市川寛はゴルフの名手で相変らず黒い。貴録の出た萩原竜夫。死んだはずの吉池一郎。以上三名が電々公社。毛沢東か周恩来と仲のよいという渡辺卓郎。横浜を転々と動く横浜銀行の上野豊重。再軍備に忙しい小出等。証券取引で財を作る佐藤麟也。美男子で若く見える佐藤富士夫。のぞきレンズを作くる滝沢新次。酒のみ運転を取り締る平林幸男。保険に入れば生命は心配ないという山本周三。鉄より堅い長谷川和音。漫画の本を作る吉田光輝。唐沢正己が昨年はじめて顔を出して興奮したり感激したりで何れも学生時代と変りのない奴ばかりである。

卒業以来三十年目にしてはじめて会って話すことは、若き時代のこと、互いに若き時代になったような気分になれるのも楽しいものである。

関東支部大会には全員ぜひとも出席されるよう希望する。

（40期・萩原　愈・㈱高見沢電機製作所常務取締役）

幹事会思い出すままま

だいたいから、同窓会の、しかも幹事会などというのは、オエラガタがしかめ面をして、むつかしい話をする会合だと思っていました。"どうせ肌が合わないだろうまあ一回様子をみてあとはドロンをきめこもう"なんてことを、幹事を依頼された時には考えていたのです。ところがどうして、皆様面白くて、親切で、顔の色つやも良ければ気も若い方たちばかり。ドロンすることをすっかり忘れてうかつにも何年も幹事をひきうけてしまいました。

私は52回の卒業ですが、女性第1回の卒業生でもあります。50年余り続いた"男の園"の夢を破ったヘソマガリと申せましょうか。はじめて出席した幹事会の席で、先輩から「このおじょうさんは、どちらの……」とケゲンそうにきかれたのに、くすっと笑い「後輩です。ドーゾよろしく」とベロリと舌を出したのを思い出します。

「我々の後輩に女性が出たか…」「世の中は変ったねえ」「あんたが、どうして男の学校なんかに行ったネ」「そりゃ名門だもん」などと、それは賑かなことでした。たしかに共学の経験を持たない先輩達にとって、目の前のヘソマガリがいくら後輩だとわめいてみても、それはなんともチグハグなミョウな気持だったに違いありません。でもとにかく稀少価値だったからでしょうか、親切にして頂き「御婦人の意見を聞かなきゃー。オイ、ナンカイケンネーカヤー」なんと、たいくつしっこなしでした。

都会の取りすました、それでいて雑然とした生活に疲れていた田舎育ちの私にとって、いつのまにか幹事会はオアシスのようなものになっていました。ポンポンとび出す上田弁。荒っぽい言葉でいいたいことをいう合っきらない雰囲気がとれだけ明日への力をつけてくれたことでしょう。

温厚な、いつもニコニコゆったりかまえてられた故清水先輩。すました顔で人をからかったり皮肉ったりするのが得意の稲垣現支部長、またとないハスキーヴォイスでがなり続けの矢島センセ、たまに上田から出て来て私の顔をみると「オイ、マダヨメサンニイカネーノカー」とニヤーっと笑っておられる竹内先生、そして……あの顔この顔と浮んで来ます。本当によい想い出でした。二年前、当地、大阪に移りましたが、この想い出だけは大切にしていきたいと思っております。

（52期・奥紀子）

大陸で活躍した

三先輩をしのぶ

新聞記者を長くしていると、いろいろな事件や人にぶつかる。わたくしが、朝日新聞の特派員として、中国各地を飛びあるいていた当時、満州、華北でお目にかかった上中の大先輩―いずれも故人―のおもかげを、記してみる。

鷲沢与四二氏（一回生）上田野球部の草分け時代の選手として有名、慶応の野球部で活躍し、早慶戦の花形選手でもあった。のち時事新報の北京特派員となった。わたくしは学生時代、北京に旅行して、初めてお目にかかったが、長身のスマートな慶応ボーイ。氏をめぐる逸話には尾ヒレがついて伝説になっている。座談の雄で、北京在留邦人中の名物男、芳沢大使時代蔭の民間外交家であった。長野県第二区から衆議院選に立候補したことがあった。

金井章次氏（四回生）医者、医学博士。医者のなかには、およそ医者らしからぬ医者がいるが、金井さんもその一人。伝染病が専門であったが、満州建国の"専門屋"となった。満州青年連盟の指導者となり、板垣、石原将軍（当時佐官）らとともに、満州事変の推進者でもあった。丸い顔で童顔話し好きで、わたくし達後輩とでも、酒を飲みながら夜を徹して話す型であった。

協和会創設者の一人であり、小沢開作（名揖　揮者小沢征爾氏の父）片倉衷氏らと活躍した氏か豪彊自治政府の最高顧問当時にも、わたしは張家口で氏を訪ねたが、油ののり切った仕事振りだった。その後、事件拡大を策す軍と意見が合わず、時々批判的な話をわたくしにもらした。終戦後郷里上田に引きこもった。塩田町にある拙宅を訪ねて来られ、母国の復興について遅くまで語り合ったこともなつかしい思い出である。

上田駅の古いレール

だいぶ以前の話だが、銀座の都電が廃止されるのがニュースになったことがある。都電廃止は別にめずらしくはなかったが、土地柄のせいで、古いなじみが消えて行く哀愁に商魂が結びついた。催しが予告され、最後の電車がはなばなしく走る当日は、たいへんな人出になった。後に、外したレールを小口から薄く切断し、みがきをかけたものが文鎮として、商品化されたが、これが飛ぶように売れた。由緒ある古い銀座の工ぴ行くレールというのである。

それからしばらくあと、私は久しぶりに信州に旅をして、上田で上り列車を待っていた。この駅も古い。三十年前、ニキビのころとほとんど変らぬ配置のように思える。改札口を出て、すこし左のあたりで風にふかれていたが、あちこち眺めまわしているうち、ホームの屋根を支えている柱が古いレールなのに気がついた。白いペンキでぬりつぶされたレールの側面に、幾つかの文字が浮いている製造の時、鋳こまれたものが、歳月にたえて消え残っているのである。中に1886SHEFFIELDというのが、目についた。なるほど、八十年前の英国シェフィールド製というわけかと、ぼんやり考えた時、スマートな上りディーゼル特急がすべりこんできた。

車中で続きを考えた。一八八六年は明治十九年に当る。日本初の鉄道は明治五年開通の新橋・横浜間だということは、よく知られている。するとあのレールはそれから十四年後に英国の鉄の町で作られたものだ。明治初年の鉄道資材は、ほとんどすべて、英国製だったはずだから、この点に不思議はない。しかし、信越線はいったいつ出来たのだろう。あのレールはもともと上田駅のものだろうかそれとも……。私はくわしいデータがほしくなった。

帰京してから、調べてみると驚いた。どうやらあのレールは信越線開通の時に敷設された代物らしい。信越線というのは高崎・直江津間を指す。記録によれば、高崎・横川間の開通は明治十八年、直江津・軽井沢間は二十一年、難関碓氷トンネルの完工、全線打通は二十六年である。東海道線の全通が二十二年七月、東北線が二十四年、山陽線が下関に達したのは三十四年にくだるからかなり早い。信越線はたいへん古い線なのだ。

さて、全資材が英国直輸入（レール国産化は明治末期以後）だから、長野県内の路線は、直江津港に陸上げれたにちがいない。そこから、謙信公以来の峠路をたどって、善光寺平へ伸びた。「異端の鉄蛇」は、千曲川の河谷を、はるか上流の碓氷峠めざしてじりじりとほい上がっていったのだろう。

上田付近に達したのは明治二十年頃の筈である。そしてその前年英国で新鋳されたレールがここまで運ばれ、新駅の構内にすえられたと考えて、間違いないだろう。つまり、あの古いレールは、いまから、八十年前、この地方を初めて陸蒸気が走った日に、沿道の歓呼の中を、信じられないほどのスピードでぼく進した機関車が、もうもうと残した煙の中で、黒々と光っていた。あの時のレールの、老残の姿なのである。はるばると極東の山国に運びこまれたそして千曲川のほとりに置かれてほぼ一世紀。かつては、地に横たわり、頭上をあわただしく去来する無数の人生の重みに耐えた。いまは直立させられ、ホームの屋根をじっと支えている。ほかの駅にも、仲間はたくさん残っているのだろうか。それとも運よく永らえた少数派なのだろうか、いま東京万世橋の交通博物館に、新橋・横浜間に使用されたと伝える古いレールが展示されてるしかし、製造年次と地名は、風化がひどくてもう読みとることができない。上田駅の古レール君の健康を祈りたい。

（37期・浅野恭平・読売新聞整理部長）

大士会ここにあり

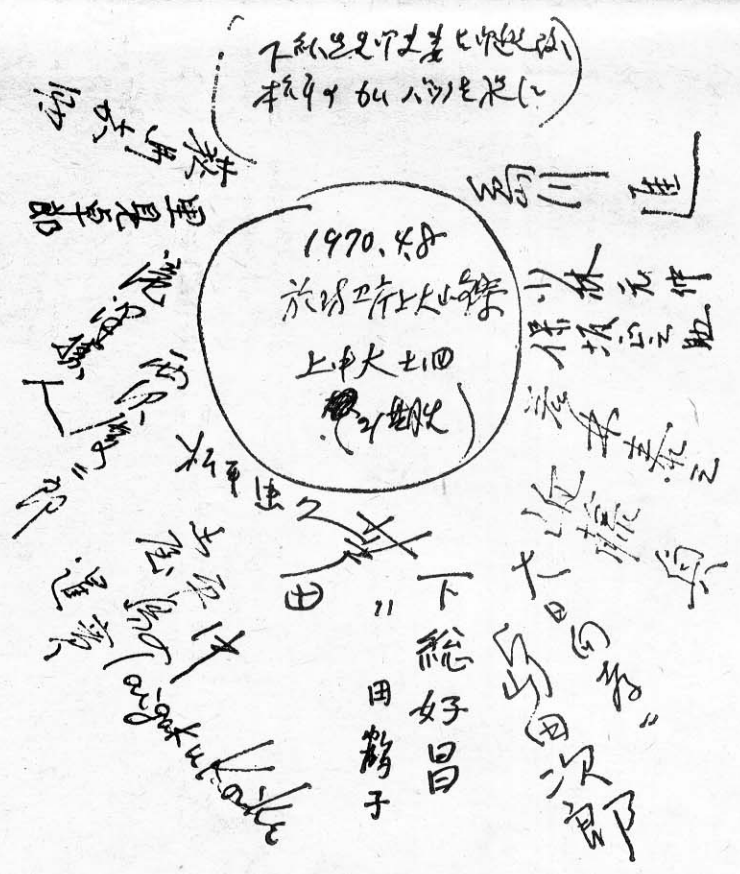
恩師下総好昌先生夫妻を迎え、先生のご健勝を祝うと同時に、松平君の衆議院カムバックの祝賀を兼ね四月八日午後六時から、防衛庁上大崎寮で同期（二一期生）会を行なった。十六名の参加を得まさに盛会、上中大士会の名にふさわしく意気益々盛々、価千金の春の夕を心ゆくばかり歓談した次第。尚下総先生は、二年八ケ月上中に在職され、英語を担当された。

（21期・小池泰岳・財団法人啓明会理事）

小山貞知氏（五回生）金井さんの一年後輩。大連で「満州評論」を発行主宰、張学良政権を向うに回わし、また満鉄王国についても常に堂々の論陣を張り、一歩も譲らぬ気概があった。禅坊主のような風貌で、鋭い理論というよりはジワジワと大きく包んで押してくると、いう性格の持ち主であった。

満州青年連盟にも関係していた。終戦後、創刊号以来の「満州評論」を米軍に押収されたことを残念がっていた。逗子に引きこもり、ベトナム戦争解決策などについても長文の論策を書いていたが晩年はカリエスに犯され病床にあった。金井さんの後を追って、亡くなられるまで、意気衰えなかった。

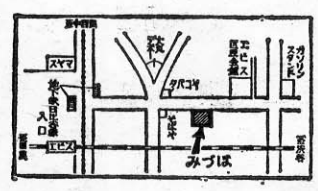
右の三先輩はともに信州の山国から大陸に渡り動揺期の日本の先端で活躍していた方々である。



精密歯車装置設計製作
精密機械仕上加工及組立
若葉精密工業株式会社
取締役社長　土屋　学（31回）
専務取締役　土屋　博（47回）
取締役　土屋　孝（44回）
東京都目黒区八雲2－8－5
電話（717）1347・6050

公認会計士　小林郷司事務所
公認会計士　小林郷司
（税理士・中小企業診断員）
事務所　〒101　千代田区神田鍛冶町3－3（共同ビル）　電話（252）8801～2
自宅　〒177　練馬区関町4－甲748－9　電話（902）6736
（第40回　丸子町上丸子出身）

クラス会・ご商談・ご会合に
ご利用のほどお待ち申し上げます
割烹　みづほ
東京都渋谷区恵比寿西2の2
電話461－8663・463－4537



野球の思い出（2）

（25期）馬場長市

私の野球選手生活は中学四年生の時からである。当時柔道部に籍をおいていた私が野球に転向したのは兄（三子男）や同郷の先輩佐藤竜氏（20）の活躍に影響されたのではないかと今にして思われるのである。次兄は高等小学校時代投手として鳴らし、長兄（三子男）は中学五年生の時マネジャーとして活躍した。殊に佐藤竜氏は大井源太夫投手黄金時代の名外野手として名声をはせ、暑中休暇には郷里温尻で佐藤氏を中心に「ハート倶楽部」と称する青年野球を結成し当時としては珍らしい「真紅」のアンダーシャツを揃えて衆目を驚嘆せしめたものである。兄の次のマネジャーは小川栄一氏（藤田観光社長）が引受けられ大井投手を軸として鳴尾球場進出の夢をかけた甲信越大会の松商戦に於いて一死三塁の絶好機にスクイズを見破られて勝機を逸し二対一の大接戦で遂に涙をのんだ戦況をつぶさに話し合っていた兄と小川氏との対話の情景は今でも脳裡から去ったことはない。

さて野球部に入った私は臼田達二郎氏を正投手とし第二投手兼外野手としてスタートした。五年生になって高島兵庫氏がマネジャーに就任し臼田、柳沢両氏のバッテリーで県下に於いても上中強しとの評判で甲子園進出の悲願達成をめざして練習に励んだが諏訪中学校庭に於ける県大会に頼みとする臼田投手が長野商業に打たれて敗れ苦汁を嘗した恩は忘れ得ぬ痛恨事であった。当時の上中野球部は桜井、宮原、両大先輩が慶応のOBとして健在であり県下では名門として扱われ大会前の合宿練習には大学の一流選手がコーチとして派遣されたものである。私は二年間に亘り長浜俊三氏の薫陶を受けたものである。氏は野球でも一流の投手であり長浜聖人といわれる程の高邁な人格者であった。練習後も氏の宿舎に集合し現在の野球教室とでもいうべきセオリーを論理的に解説され、当時としては卓越した理論を植えつけられた。

爾後三十有余年に亘る私の野球生活のバックボーンとなりその精神は脈々として私の身に生きている。

私の上中に於ける野球生活は二年間に過ぎないが最も忘れ得ぬ思い出が一つある。それは大正十四年の夏の大会を前にして松本中学との招待試合の一戦である、この試合で完投し打っても貴重な得点をたたき出し勝利投手となったことである。試合後塩川の菓子屋で松中選手の歓送会に当日の戦績を話し合いながら全力を尽した後の勝利感は又格別の情感があった。次に昭和三十二年上田松尾高校が五十六年来の宿願であった甲子園進出の快挙である。当時私は京都に在住していたが休暇をとり連日球場に通い応援に熱中した。優勝候補と目されていた平安高校を破った一瞬時には青春の血が滾り感涙の頬を伝わるのを禁じ得なかった。私は試合に勝った喜びとは別につぎはぎだが清潔なユニフォームを身にまとい六文銭の旗印の下に正々堂々の奮戦振りは質実剛健の母校の特長を全国に誇示した事は特筆大書に値するものである。当時の新聞紙上に上田高校はスポーツのみならず勉学に於いても極めて優秀校であり車の両輪の如く学業とスポーツを見事に両立させた高校であると絶讃された。

最後に母校野球部の諸君に希望したい。私は学問とスポーツは両立出来るものと確信を持っているものです。長い人生を考えた時、高校時代の勉学とスポーツによって得た強く逞しい健康体とバイタリティは猛訓練に耐えた不屈の精神力を併せ持つことによって諸君は進学にも社会人としてもその前途には光明に輝く彼岸が待っていると信じている。世代は頽の細い青白い秀才を望んではいない。

「点取虫に堕する勿れ」と強調したい。井出先輩のご都合で代打を命ぜられ急遽先哲の麗筆に代わり拙文を弄した次第です。（松尾球友会副会長）

汗と涙と夢と

＝甲子園の土＝

（56期）神津進

私にとって、高校時代の野球生活は、まさに忘れ難い日々の連続であった。そして、かけがえのない生涯の思い出の多くが、そこで生まれた。以下は、その最も鮮烈な印象を残す、甲子園初出場の記録である。

昭和三十二年八月六日、我々は晴れの甲子園出場権を獲得し、意気揚々として、新潟白山球場をあとに、一路母校へとむかった。地元上田市では、あこがれの甲子園出場の夢が、まさに実現したとあって、その労をねぎらってやろうと、駅前広場には、約五千人を数える歓迎陣が待ちかまえていた。

我々は、この機会に、いままで声援下さったり、また、この日の歓迎会のために、わざわざ準備し心からの出向かえをして下さった市民の皆様に、深い感動の気持を込めて、この感激と喜びを、ともどもかみしめ合いながら、母校までの道中を行進することを考えていた。思えば、その年の春、第十六回北信越高校野球大会（参加県、長野、新潟、富山、石川、福井の五県）が、福井県で開催された際、我々は、予選を勝ちぬき、長野県代表として、その大会に駒を進め、好運にもめぐまれて、四年ぶりに優勝旗を信濃路へもち帰ったことがあった。その時のことである。監督が「我々の目的は、あくまでも甲子園出場にあるのだ。たかがこの大会で優勝したからといって、天狗になったり、うぬぼれたりしてはならない…」といういましめの一言で、上田駅から母校までを、優勝して、かえってまずかったかの感を抱きながら、とぼとぼと足を運んだことがあった。というのも、この大会での優勝校が過去において、甲子園出場という実績がないからであった。そんな思を頭に描きながらそのジンクスをも打ち破って、ようやく念願かなった今日こそ、当然監督始め、我々選手も、声援下さった皆様方と共に喜びをかみしめたかったのは、言うまでもないことであった。しかし、その意に反して、我々は、特設された広場のヤグラの上で、でく簡単にあいさつをとりかわしただけで、その場で解散を命ぜられて、それぞれ我家へとむかうことにあいなったのである。これは、流感と体力の消耗とで弱機きった身体を、一日も早く回復させ、あと五日に控えた甲子園大会にそなえて、できるだけ良い体調で、のぞめるようにとの、監督の配慮であった。

（東京ガス㈱藤沢営業所勤務）

依田先生の胸像について

今日十七日突然に、東京の小林郷司君より電話で同窓会関東支部の会報に何か書いてもらいたいとの事。時間がないので書いたら、すぐ速達で送れとの事で電話が切れてしまった。誠に困った事になったがどうも上中同窓会と言う事になると、なんとかまとめねばと決心した次第です。さて、平素の手紙でさえもろくに書く事の嫌な小生が一番にが手な事をするのだから何卒文章のつながりのうまくないのは、当然ご御容赦願います。書くとなれば矢張り柔道の事、柔道と言えば、柔和会、柔和会と言えば、依田先生の事になります。

昨年の三月三十日上田高校同窓会館に於て、依田先生の胸像が、小林三郎先生の金精力をかけた力作にて、立派に出来上り、贈呈式が行なわれたのであります。この日迄には実に一年有余の年月が経ち多くの人々の努力が積上げられてこの日を迎えたわけであります。

稲垣大先輩、小林連美、又柳沢同窓会長、横関辰雄八段、又在京上田の諸先輩、後輩の多くの熱のある若い人々、特に小林郷司君の如きは依田先生のことなると、人の変わった様な熱の入れ方でありました。上田の我々は始のうちは、何うなる事かと心の中で不安でもあり、又種々の言うに言えぬ問題があり、心配しておりました。

所が丁度 全く丁度と言う言葉の通り、竹内敬太郎先生と言う、口八丁手八丁の事務局長が、これ又柔道部でもないのに我々の仲間に引きずり込まれて、始のうちは我々同様熱も上らなかった様ですが、嫌でも応もなくやらねばならなくなって来て、遂に大馬力をかけて頂く様になった次第です。全く協力と善意の結集と言うものは恐ろしいものだと、つくづく感じました。大変に陰になり日向になり御後援と御配慮頂いた各方面の先輩後輩の方々にはこの紙上で心から厚く御礼を申上げる次第です。さて三月三十日はお目出たい日であるわけですが、その前に依田先生が三月十六日風邪で寝ておると聞き、更に十八日には脳血せんで飯島杏栄先生に診てもらっておるとの事。三十日を目前に控えてこれは一大事と思い、柳沢先生竹内先生その他関係者とも相談致しましたが、今となっては心配と同時に事務一切は完了の状態で、御家族とも御協議の結果、式の決行も出来言語その他に不自由はなくなった現在の御様子です。本当によかったと思っております。尚胸像の台石に就ては先生自から注文をされ、家族の皆様の御協力にて佐久の大石を運搬させ、石工は先年沖縄の長野県戦没者慰霊碑の作成者に依頼され、立派に諏訪形の自宅庭に造られました。台石の上に厳然として、温情溢れる先生は永遠に流れる千曲川を、ちっと郎山の下、我が上田高校をちっと見られておられる御姿となっております。先生も出来上った、此の胸像を御世話になった皆様に是非見て頂く様にと、その日の来るのを御待ちしておる様です。何卒先生に代って小生から在京の皆様に先生の御趣旨をお伝え致し、今迄の御後援と御協力を厚く御礼申上げ、先生の近況を申上げた次第です。（31期・山寺豊一・長野プロパンガス㈱専務取締役）

表彰状

ハンドボールOB会

『上田高校ハンドボール部 殿

貴校は永年に亘りハンドボールの発展普及に貢献せられ、全国大会出場十二回の栄誉に輝き、高体連二十周年を記念し、ここにその名誉をたたえる、日本ハンドボール協会』。昨年群馬県富岡市において開かれた全国大会において、多年出場優秀校として、数少い中の一校として表彰を受けた。感もあったにして、先三月二十九日母校グランドに先生方、後援会の皆さん、OB等関係者一同集い、親善試合を楽しみながら、盛大な受賞祝賀会を催した。一つの運動部として発足以来二十余年、歴史を感じ、存続の大切を語り合った。関東支部幹事の皆様が、母校訪問に時の流れの寒風を感じられたかに聞き及んでいるが、我々は一つの部門を通してではあるが、母校を中心として、楽しい集いをつづけている。運動部であれ同窓会であれ幹事の人々の御苦労は大変であろうと思うが、続けている、続いているという事が、何時か何年か振りで旧情を確かめ合うことの出来る保証であるように私は思う一人ハンドボールの発展を祈るのみならず、年毎に盛大になる関東支部同窓会のますますの御発展を心より祈ってやまない。（ハンドボール部OB会東京支部副支部長・48期、山崎延秋・ユニトレックスセールス㈱取締役業務部長）

陸文会

〝在校選手諸君と相会うて〟

恒例となった母校の陸上競技部の集い「陸文会」が、去る二月十四日（土）午後から同窓会館の一隅でひらかれた。毎利二月の第二土曜日と定っている。今回は在校生の競技部員も交えて語り合おうという計画の由、母校の（33）矢島豪先生からの便りである。そちら東京在住の先輩を誘ってぜひ出席してほしいとのこと。早速に連絡もつけてみたが、相悲くと皆都合つかず残念ながらこちらからは私一人りだけの出席だった。

和田晋会長は御欠席だったが（22）滝沢信男副会長始め在郷の各期先輩十数名と、在校生一、二年生の現役選手諸君と交歓を共にしたことは、本当に有意義な会合であった。

小林学校長先生も御多用の中を出席され御挨拶と激励のことばがあった、前校長さんであられた（23）清水次郎先生その音、中距離ランナーとして鳴らした先輩も出席、なごやかな会談がかわされた。

滝沢先輩の挨拶や想い出話、そして詳細にわたる矢島先生の経過報告と今後の方針説明など、炎天の下、目もくらみ、胸をくいしばっての猛練習と己れをきたえる頑張りの精神力、先輩一人り一人りの想い出話を、在校生諸君がジット聞き入っていた。ひざを揃え、コブシを握って両膝にキチンとおいて、眼を輝やかせている。純真な真面目な美しい姿をみて私はどんなに頼母しく思ったことか分らない。

勉学と運動、体力と精神、こもごもに先輩がそのかみの選手生活を回想しながらの想い出話と激励は、若い在校生選手諸君に大きな力強さと奮起を与えたことは疑いなかった。

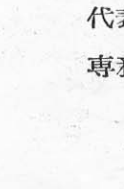
「先輩、あまり強く在校生を激励し過ぎぬようにお願いしやす」矢島先生からソットささやかれた言葉である。余程私の蚕声が気になるらしい。長い都会生活でも信州弁が全く消えない自分をお可笑しく感じながら「承知」と答えた。

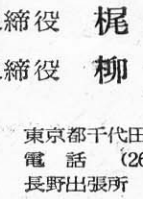
同窓諸兄にお願い

＝薄謝を呈す＝

松尾球友会に於いて上中時代、高校各時代に於ける野球部誌に代る「思い出」の編集を企画致しておりますが現在まで若干の調査で判ったことは我が野球部の部歴は誠に輝ける伝統と歴史を有し杜撰な編集は許されない厳しさが、だんだんと判ってまいりました。そこで同窓の諸兄のお力を借り広く野球部のことに関し（応援団の思い出も含む）御資料を賜わりたく公募いたします。何卒御協力の程を切にお願い申し上げます。尚ご協力諸兄には薄謝を用意致しております。

連絡先　杉並区成田西2の22の21　中村礼三（32期）





＜掲示板＞

次号発行予定は、十一月上旬

―◇―◇―

投稿歓迎＝九月末日までに（但し九百字以内）

―◇―◇―

広告申込みも大歓迎（詳細は事務局へ）

―◇―◇―

年会費未納の方は、お早めに会計幹事の方へお払い込みください。

流量計・量水器・プラスねじ各種・パンチ・ゲージ・スパイロールピン・溝付ピン・フィードマット・スタンドマット・リベットセッター・ピントレックス
外省力組付機械各種
Nitto
日東精工株式会社
東京支店 支店長 馬場長市（25回）
東京都品川区西五反田7 22 17
東京卸売センタービル
TEL 03―494―2441㈹

設計管理監督
株式会社 梶建築設計事務所
代表取締役 梶川一夫
専務取締役 柳沢年（34回）
東京都千代田区麹町2―4（小西三誠堂ビル）
電話 (261) 3690　(263) 2077
長野出張所 長野市中御所326
電話 02622―7―4533
所長 小山真平

ネオン、プラスチック看板
国際電飾工芸社
代表者 中村礼三（32回）
東京都杉並区西田町 2―237〒(166)
TEL (398) 6045

文房雑記

文房の王といわれる硯と墨については、亡くなられた清水支部長さんは、書もまたよくされ、名硯も所持されていたと聞いているが非売で三越の展覧会に出された、二点の書が売約になってしまっていると、特別食堂でお招きをうけた折、ぶりぶり怒られていたことを想い出す。私も古書を初め、硯と墨から文房についてはよく神田の古本街から骨董店、美術店などをさがし歩いているが、もういいものは殆んど出ないし、また中国は、最近、戦前につくられた硯、墨の部類までも輸出を禁止していることから、輸入に期待することはさらさら出来ないし、現在、はいって来ている中国製の硯墨については余りにも品質が低下しており、かつての面影を発見することは全く困難である。この間も戦前に上海ガスに副社長をしておられた中国通のソニーの吉原社長が中国から買って来られた文房を色々みせられたが、残念なことに全部が組悪なコッピーだったことである。東京では銀座の鳩居堂、宮中ご用の虎の門の晩翠軒、京都では老舗の二条通りの香雪軒、鳩居堂など、いつも訪ねているがこの頃では出物も勿論ない。硯といえば世間では、端渓硯を第一と思っているが、端渓といっても百もの坑があってその中でいわゆる端渓の王者ともいわれるものは全部、水辺の坑、即ち、官坑（水坑）からの採掘で、これを端渓水巖といって最高とされているが、山から掘り出すところのものは出坑、即ち民間でのもので、いいものは出ないのが当然である。私もかつて戦前、端渓を訪れたが、戦争中のため、掘ってはいなかったし、現在はもう掘っても出ないので中止していると聞いている。この端渓という名前は大体、聞いて人は知っており、硯といえば端渓といって、よく若い人が「端渓はないか」などと何も知らないで新端渓と称する部類のものを四、五万円で買って喜んでいるが、私は端渓硯よりも素晴しいもの、それは稀少故にその名が余り出なかった名筌であるが、端渓硯でも歙州硯でも、これを掘り出すためには、都から遠隔の地に在って、しかも、採掘現場には、虎などが常に襲って来るといった危険、またこれを都まで運搬するには実に大変な危険と労力を要したものと考えられる。端渓硯歙州硯を硯石の王者と考えている。勿論、端渓水巖の名品が三百万円といえば、歙州も三百万円で端渓と並称されても第二位に落ちることはない名硯であり、私も歙州も端渓も何面か持っている。硯は唐代にもう瓦硯などが使われたために皆、その採掘事業は官坑として政府、帝王の専管となったわけである。かつて日本有数の名硯名墨の所有者である大養木堂翁のお子さんの健さんやお孫さんの道子さんが童中居で売立てをやったことがある。私は初日に行けなかったが、この売立てでは、目ぼしいものは殆んど、好事家やコリクターではなく、業者、特に関西の商人に買われて、あれだけの蒐集がもう今では散逸してしまったことは全く残念に思っている。戦前戦後を通し、北京、台北の故宮博物院その他で色々みた文献や名硯名墨など、もっともっと日本でも研究調査されていいと思っているが、日本と中国の共通の話し合いの広場ともいうべき文字において両国が最近、新しい簡略文字を使用し出して来ているため、なんだか親類の中国が近きに在って実はだんだん遠くなってゆくことを私はおそれるものである。

（37期・小木曽進・美術評論家）

竹内敬太郎先生と関東支部

昭和三十三年四月に第一回の関東支部大会（当時は東京支部大会と呼称）が開催されたが、この大会がひらかれるまでには幾たびか母校との連絡打合せがあった。

当時同窓生の連絡事務の担当として母校の教職にあられた竹内先生が専らその任に当たられ、しばしば御上京も願って関東支部結成のため多大な御苦労を願った次後でもあった。

爾来、関東支部大会開催の都度母校や同窓生の消息等については御協力を賜わり、上田千曲高校に御転任の後も今日まで何彼と関東支部の件については御相談に予っていただいてきた。

先日、突然に後に御紹介の如きお便りを拝受し、感も一入と深い、母校御在職は実に三十年近く、将に同窓生については生き字引的存在の先生であられる。

眼を細めての御慈顔は、幾多の激えを受けた同窓生にとっては忘れ得られぬ印象であろう。選称をケッタロウせんせい、と仄聞する我々と母校を共にせられる第二十九回生の同窓生でもある、今日の隆盛と団結を強めつつある関東支部にとっては実に御世話になった忘れ得られぬ先生でもある。

竹内先生の長き教職の御生活が一応ここにピリオドを打たれ、今後を更に新しい人生に向ってお進みとの力強いお言葉である、関東支部として今日まで先生が御尽力下さったことに心より御礼を申し上げると共に今後共同窓生の件に関しては御教示も願えることを念じつつこれからの先生の御生活に御多幸のあらんことも併せ祈り、先生からのお便りを本紙に掲載し会員御一同様方へも御知らせ申し上げる次第であります。

（矢島幹事長記）

竹内先生からのお便り

謹啓　陽春の候ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

私ごと、去る三月三十一日をもちまして長野県上田千曲高等学校を退職いたしました。顧みますと昭和十六年上田高等学校に奉職以来三十年、公私共にご懇情をたまわり誠にありがとうございました。非才の身が幸いに大過なく楽しく勤務し得ましたのも、ひとえに皆様方の温かいご指導の賜物と深く感謝いたしております。

これからは今までに読み残した唐詩選等に親しみながら、新しい自由な人生を有意義に送りたいと念願いたしております。何とぞ今後とも倍旧のご交誼をお願い申し上げます。

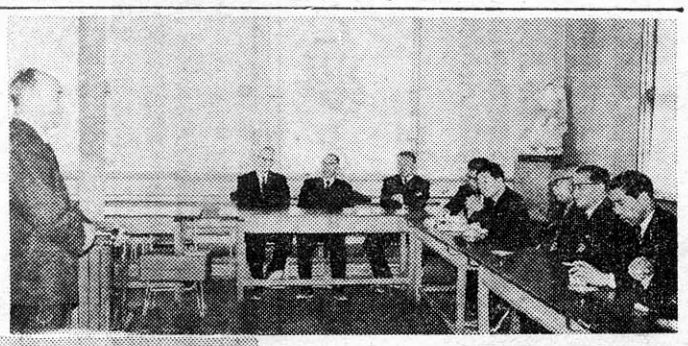
末筆ながら皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げご挨拶といたします。

昭和四十五年四月　敬具

〒386 長野県上田市大手町五四六二
竹内　敬太郎
電話上田（2）四三九七

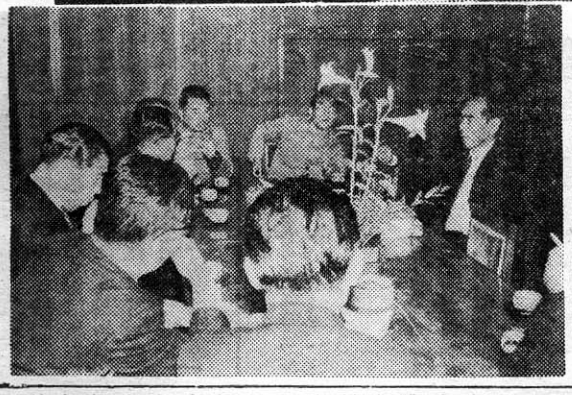
フォトスナップ

八面の記事参照



▲ 母校会議室で小林校長先生の話しを聞く幹事諸氏

▶ 市役所にて小山市長に矢島幹事長より関東支部会報を贈呈。



◀ 染谷丘高校で前島教頭先生を囲み歓談。

情報

幹事新年会に多数御来駕いただく

染谷丘東京同窓会より

恒例となった幹事新年会は一月二十九日、東京農林年金会館に六十名を越える幹事の参加と染谷丘東京同窓会より十一名の各期幹事をお迎えし、実に和やかに賑々しく大盛会に行なわれ特に染谷丘高校卒の若き幹事も多数見え、いつにない歓談と次会を約して散会。

関東支部旗製作成る

関東支部旗の作製が望まれていましたところ矢島幹事長の命による50期・半田収一郎幹事の図案が幹事会を通過し、33期・橋本利政氏に御足労を願い支部旗（写真）一等と同小旗五等が作製されました。

支部大会はもとより幹事会の席にも掲げますが、同期会等にも奮って掲げられたく事務局で御利用をお待ちしております。

矢島鋳工K・Kの職員各位へ感謝状

関東支部のため常日ごろ多大な御尽力を頂いております矢島鋳工株式会社職員の皆様に永らく懸案のまま過されておりました感謝状と寸志記念品の贈呈は、社長である31期・矢島五郎幹事長の「感謝状のみ、ありがたく頂戴する」との強っての希望により、一月二十九日の幹事新年会の席上で感謝状のみ14期・稲垣征夫支部長より、矢島鋳工職員代表としての58期・林嘉市幹事に手渡され、支部長の深謝のことばとともに一同感謝の拍手をおおくりしたが、まだまだお世話にならなければならない現状も訴え、今後ともよろしく御援助いただきたい旨も厚かましくお願い申し上げた。

本会報編集に御寄附

編集活動の助力にと、左記の方々より御寄附いただきました。

一金、五千円也、35期・堀江誠殿

一金、弐千円也、35期・渡辺達也殿

御理解ある御援助を賜り、一同深謝致しております。紙上を借りまして御報告旁々、厚く御礼申し上げます。

長野県花・そば

どてからす訪問記

カメラぶらさげコンニチワ　〈2〉

何かと銅いならされて、又、紙面をよごしやす。（写真参照）

◎ウレシカッタゼベイビー

十年ぶりで上田に舞いおりた悪カラスを電話一本で太郎山の麓に住む真面目カラスが自家用車で駅迄迎えに来てくれて愛の巣では家族そろってもてなしてくれたし土産にもらった裏方作りの漬ものもスゴクウマカッタ、友とは実に良きもの、ウレシキものである。

この旧友の他にも私を迎えてくれた人達が居た、五人程の本州大学生と十人程の染谷丘の女高生がアジ演説で歓迎？というわけだ、デモには「レッコの私だが着いたとたんのデモには、いくらなんデモ「上田よ、おまえもか」とカアカア泣けた。だがよ、大学生の棒読み調子のガナリ演説はウルサイだけで何もわからんかったが、そのあとで女高生達がおたがいに顔を見合わせ頬を紅潮させ、一、二、三、と、うなずいてテレクサソウに「アンポハンタイ」とおっしゃってニコニコしながらギターを弾きながら行進をはじめたズボンじゃないスラックススタイルを見送りながら、こんなにイジラシク可愛いデモがあるんだなあと、こみ上げてきた微笑みをおさえることが出来なかったぜ。

◎温古知新

こんなことばを使うと後輩どもには手寄りあつかいをされるが、まあいいわい、母校の門、左様、古城の門の前に立ち何と懐しかった事よ、昔日の思い出が次から次へと湧える…彼女のことなど全く忘れて…だがよお、古き門を眺めての感慨を、校舎の姿が、教室の姿が、一度に吹き飛ばしてくださった。老朽さが先に目に入り痛々しさのみを感じさせる。

門の古さは貫録を見せてくれるのに…、俺たちも教室を大事にしなかったっけ、と思い出され今更後輩達にキタナイゾ等といえたもんでもなし、その上に「先輩ようこそ」等と言ってくる可愛い奴もなく（来れば、おごってやったのに？）歓迎されざる先輩とセツナクなったら、彼女の姿が…

ところがだ、物見高いは徳をする、新しい市役所と、新しく出来たての染谷丘高校とに、あつかましくもおしかけたら同窓先輩の市長様は昼食を出して下さるし、染谷丘では、やはり同窓先輩の先生が居らして茶菓でもてなして下さり（詳細は先輩方が別記されてるから、そちらを読んでね）同窓生とは実によきものと、しみじみ感じながら窓から外を眺むれば何と上田市街地を眼下に一望の高い所だ、校舎も良し、場所もまさしく丘の上で、我が母校と何と違のあることか、これぞまさしく女性上位時代のサンプルではと心配になり、伝統ある淑かなハイヤーをお育て下さる様お願いして丘を降りた。古郷を訪ねて、強力に新しく発展している故郷の新しい面を知りましたというおそまつ。

◎肌のフレアイ

49期の会合で恩師小松先生を囲み当時の憂のムチ？なる話しに花が咲いた。口よりも手の方が早かったお一人だった先生の左平手打ちを出席者全員が頂いた思い出をもっていた。だがしかし、34人の出席者の中で誰一人としてウラミを言ったものはなく、かえって非常に懐しい思い出として、又、おかげ様で横道にそれずに…と、なかでも山岸氏の如きは、先生のを頂いて唇に傷をつけて帰宅したところ父親にとがめられた上、叩かれる様な悪い事をしたと思ったと言う、かくの如き厳父、今もいづこかにおりしや、P、T、Aでたずねたい。彼は今や立派な弁護士先生である。現在多発の過保護児を育ててしまいそうなアマイパパやママさん方に是非共聞かせたい話しだ。（吾ピンタ・今殴打）

平手打ちも風呂での背中の流し合い等、なんであれ情のこもった愛のあるものであれば人間は肌のフレアイにより近親感と信頼感を深め決して互いを引き離すことはない、現在の教育も友達付き合いもウワベだけのものが多く、肌のフレアイはもっぱら男女間に走りたしかに肌の…とおっしゃる。

困った時代か、ウレシイ時代か。

（50期・土手野加案巣）

真空技術の日南
食品機械・真空化学装置については試験設備あり、御利用下さい。
社長　宮坂三吉（31回）
日南機械株式会社
東京都千代田区内幸町1－3－1（幸ビル）TEL 502－6201

鉄筋ブロック建築設計施工
東京都知事登録（ぬ）第37231号
有限会社 山崎建設
代表取締役　山崎行則（35期）
営業所　東京都杉並区上高井戸1－7－12
（京王線八幡山駅下車甲州街道口）
電話（303）0194（代表）
資材置場（作業場）　東京都杉並区上高井戸1－7
電話（303）0197

香老舗　松栄堂
（創業宝永年間）
薫香・線香・焼香・匂い袋
製造販売
取締役社長　畑茂太郎
取締役東京店長　吉井道教（20期）
本社　京都市中京区車屋町二条上る
〒604 TEL075－231－2307
東京店　東京都日本橋区浜町2－26
浜町京都ビル
〒103 TEL 03－667－2444

親睦旅行と母校訪問の旅！

序

「幹事相互のより一層の親睦を深めようじゃごわせんか、一泊旅行の親睦会なんてどんなもんでごわしょ」と（36）神野副幹事長のかねてからの提案もあって、いよいよこれを実行に移すことにした

ふるさとの宿

前夜の雨が、今くうそのように今朝は、すばらしい天気、定刻の集合時間を少しまわった頃、参加者が全員そろう。出発当初、私は同行をためらった。なぜなら若年は私と一期後輩のU君だけ、後は50期以上の先輩方ばかり……。幹事長にうながされ、乗用車4台に分乗し、一路信州別所温泉へ、エンジンを始動させた。行く道すがら、先輩方のあたたかい心にふれ上田高校どてがらすの由来、恩師の話、その他母校のプライベートの歴史などが、次々と展開された。不思議と言うか、いつしか、上田高校の同窓生という結びつきが、年令をこえた、何んのへだたりもない、純真なものとなり、参加したことの喜びが、次第次第に大きくなってゆくのには苦笑せざるをえなかった。郷里への道々の風物よりも、車中での話の数々、ドライブインでの、先輩方の昔話などが全く、おもしろく、あっというまに、峠をこして軽井沢に入った。軽井沢では郷里におられる先輩のKさんに逢い、昼食を伴にし、腹のいっぱいになったところで、また車中へ、小諸、大屋、丸子町、上田を経て、なつかしい、丸子電鉄の、オンボロ電車を左右に見、別所温泉〝タケヤ〟ホテルの前へ、到着した。この宿は、幹事長と同期の先輩がやっておられるとか、奥様・娘さんにあたたかく迎えられた。

小休止の間に、湯につかり、さっぱりする、宴会場に設置した、上田高校関東支部の紫の旗が、実に大きく見える。先輩に当る、小山上田市長、恩師竹内敬太郎先生をお迎えし、幹事会親睦会の宴が始まった。飲むほどに、酔うほどに支部長の言われるヤングパワーがばく発した。

唄い、スクラムを組み、おどる校歌・応援歌。

うちとけた心と心が、老いも若きも、今は、同じ母校上田に学んだ丸坊主頭の、どてがらすにすぎない。郷愁と、ひとつになった人間のおりなす、美しい姿は、言葉をもっては語れない。互いに目をうるませ、明日の母校訪問に期待をよせ、夜のとばりがふけて行く一夜あければ、母校へ……誰もが胸をはずませ、床に着く。

（56期・堀内幸記）

母校を訪れて

ふるさと、そしてなつかしい母校、夢多き青春時代を温く育んでくれた此の地、期待となつかしさで胸ふくらむ思いで、明治、大正、昭和生れの年代のことなる島田、大森、坂井三副支部長、矢島幹事長、神野副幹事長、小林、牧内両会計幹事をはじめ関東支部の幹事代表一行十九名が、十一月十七日午前十一時五十分同窓会館で一服して、肌寒き小雨そぼるなかを校門をくぐった。三十数年振りに訪れた人もあった。

会議室にて小林校長先生をはじめ、教頭先生外二、三の先生と昼食休みの午後一時まで時間をもらって懇談した。

食事が終り次第生徒がみえると言うことで、入口の戸をあけたまま待ったがなかなかあらわれず、時間は刻々と過ぎていく、つなぎにと校長先生より最近の母校の実態の説明、一生徒の蒸発事件、記者会見における意志の疎通など色々来問題が派生しており、又反戦学生運動の現況、県下のある高校では校長室が占拠され、そのあらしが何時母校に及ぶやも知れず、むづかしい立場に立たされていることなどとるる述べられた。

すき間風が入る寒い会議室でお茶も飲まず、母校がおかれている現況を痛感すると同時に、現実のきびしさを思い空虚なる断絶を感ぜざるを得なかった。

宿を出るとき幹事長より生徒を刺激させるような言動を慎み、謙虚な気持で、むしろ在校生からの希望、意見などを聞く立場でと注意を受け、心構えはしてきたものの、廊下ではドタンバタンとはねまわっている多勢のうち唯一人として最後まで集まらなかった。

六ヵ月前（五月二十五日）同窓会本部の総会の帰途、稲垣支部長矢島幹事長のお供をして生徒代表十四、五名と懇談、同窓会と言うものはどういうものか、在校生からも活発なる意見の交換もあって意を強くしてより僅か六ヵ月の間の変りよう。佐藤首相の訪米当日でもあり、街（上田市内）には女学生のみの反戦デモ行進が行なわれているニュースが流れ、反戦学生運動のピークを迎えた悪い時期でもあった。

校長先生の苦衷を察することは出来るが、あまりにも荒廃たる感じの母校（人心・建物とも…）を目の当りにみて感無量のものがあった。

稲垣支部長の苦心のメッセージも発表出来なかった島田副支部長の心中もいかばかりと思い、熱血あふれる矢島幹事長の眼に涙が流れるのも無理がなかった。断絶の時代とは言え残念であった。

我々を温く迎えてくれたのは、変らざる由緒ある校門（城門）のみであった。

本部・母校・在校生との交流など今後の問題を考えて辞去した。

（35期・花岡椿記）

鮎こく

母校訪問で味合った悲哀を胸に校門に別れを告げすぐ隣にある市役所へと一同は向った。そして新築されてから、初めて上田市役所に入った私には、どこが市長室でどこが助役室であるのか、皆目わからなかった。とにかく立派な広い部屋に通され、でっかい椅子に座わらせられた。察外に大郎山が見え、千曲の清流も見える。

母校の訪問を終えた一行が、全員着席したところで、昼食が出され、うな重や、お新香を役所の女子職員であろうと思われる清楚な乙女たちが運んでいるうちに、顔中笑いを浮べて、小山一平先輩（いや今日ここでは、小山市長さんである）が現われ、「ゆんべ（昨晩のこと）は、ごっそんなりやした。矢島の野郎が、せんだってから、何回も連絡に来たり、電話をよこして、ひるめしを出せっちゅうわけで。わしは、そんなこととはわっきゃあねえが、鯉こくも食いてえから、心配しろっちゅうことで、おれは、ほんとうに困ययりやした。じつは、市長命令で、役所の中で煮物を作ったり、飯をたいてたべてはいけないと出してある手前、どうも、わたし自身で、その規約違反をやらかしたんでは、みんなに、しめしがつかなくなるし、どうしたものかと、えれえ心配しやしたが、せっかく、東京からおいでなさる皆さんが食べたいというなら、なんとしても、こりゃ出さないわけにはいけねえと、一大決意をもって、今朝から、わしの部屋へ大鍋を持ちこんで、窓を開け放って、なるべく、におわないように作ったのが、いま皆さんの前に出ている鯉こくでごわす。いや、鯉こくという、ご注文でしたが、鮎のいいのがあったもんで、鮎こくを作りやした。まことに、ご粗末ですが、どうか、おあがりなすって……」

信州弁で、とつとつと挨拶される小山市長のお顔には、人間味がいっぱいあふれ、同窓生とは、こんなに心と心が結びあっているものなのかと、いまさらながら感激しました。

鮎こくの味は、また格別。母校訪問で感じた断絶は、ここで一べんに吹っ飛んでしまった。自ら作った戒律を、自ら破らねばならなかった、市長としての、小山先輩の苦しみ、しかし、それにも増して、同窓生に対する慈愛と友情はいま眼前にある鮎こくとなって具現している。私は人間小山一平の真髄にふれる思いがして、胸にこみあげて来る熱いものを、じいっとこらえていた。

食事は感謝いっぱいで終った。それから、一人ずつ立って感想やら、お礼を述べた。矢島幹事長が立って、お礼を述べ始めた。

「……わたしは、こんなうれしいことはない。なんにも知らなかったために、えらい無理なことを、たのんでしまったが、その無理を今日まで一とことも言わずに、おれの言うことを聞いてくれた小山に対し、ほんとうに心から感謝する…」

ここまで言って、矢島幹事長は絶句し、ハンカチを出して、顔をおさえてしまった。よほど、うれしかったのであろう、強い友情の美しいドラマが、五十路をすぎた両先輩方の間にくりひろげられ、いならぶ一同、思わず襟を正してしまった。

これが同窓会だ！

小山市長さん、ありがとうごわした。

まことに腹の中まで温った一行は、市役所前で、列車組と自動車組とに分かれ、自動車組は染谷ケ丘高校を訪問した。

代休の日で、生徒はいなかったが、「ごめんなすって！」と、職員室あたりに聞こえるよう大声を張りあげると、前島副校長先生がもみ手をしながら出てきて、「さあさあ、こちらへ…」と、応接室に案内してくれた、そこには、ストーブもあり、お菓子やお茶の接待までしてくれた。母校より、余程、心がこもっており、明るい雰囲気であるのは、どうしたことであろうか。二、三ごと、おしゃべりしていると、前島先生が「おたくの同窓生もここにおりやすでちょっと呼びましょう…」

入ってきた二人の先生が、それぞれ自己紹介をして席についた。

しばらく話し合っているうちにわたしを指して「カッチャンじゃごわせんかや？」ときた。

「お前は誰だ！」「わー宮崎でごわすに、陸上競技部で、えれえ、しぼられやした…」

さっぱり思い出せない、卒業後三十余年もすると…。私は、一生懸命過ぎ去った思い出の糸をたぐりよせた、ようやく、思い出した。「あの小泉の宮崎だな」、「わかってくれやしたか！」旧交一べんに蘇り、手を取り合わんばかりに喜び合った、故郷はいい。後輩は可愛い、歓談いつ止むのかそれからそれへと話に花が咲く、「うえだ」を贈呈して、辞去した玄関まで、みんなで見送ってくれた「ありがとうごわした」。

「また、おいでな。お気をつけて…」。車が見えなくなるまで、手を振っていてくれた。

ほのぼのとした人情味に、心も軽く、エンジンの回転も、ことのほか快調、夕やみせまる信濃路をあとに、九時頃無事帰宅しました。

（36期・神野勝男記）

幹事諸氏をお迎えして

上田高等学校長　小林俊直

昨秋十一月中旬、関東支部幹事の皆さんが故郷の別所温泉に一泊され、翌日会報第二号を持参くださって母校を訪問していただきました。このことについては予め連絡をいただき、打ち合せもし、その機会に先輩の皆さんと有志生徒との話し合をしていただくよう計画を樹て、前もって学校ではH・Rを通じ、また廊下に掲示も出して呼びかけていたのでありますが当日蓋を開けて見ると定刻になっても生徒は一人も姿を見せず、結局は私が学校の現況や高校が抱えている当面の諸問題についてお話を申し上げてご理解をお願いするという不仕末に終わり、まことに遺憾に思い、失礼のなどを深くおわび申し上げる次第であります。

昨年の秋は大学紛争の余波を受けて全国各地にいわゆる高校紛争が惹起し、本県においても長野高校では校長室封鎖という事態もあり、本校においても一部生徒による校長に対する「公開質問状」なるものが出され、期限付回答を求めるということがあり、一時は校内が落着を失うことがありました。ご来校くださったのがそうした事件の直後であったということもありますが、私はこうした校内事情がそのまま生徒の欠席に結びつかないし、また出席拒否をしたとは思っておりません。またこのことが先輩と後輩との間のミゾ、断絶を示すものとは思っていないのであります。もし承るところによりますと前夜別所の宿においても果して生徒が出席するか否かについていろいろな意見がおありのようですが、こうした事態を招いたについては、学校側に事前教育に手ぬかりのあったことも反省していますしまた生徒側からすれば話し合いといっても具体的な計画や展望を持ち合わせず、〝どうせ大したことはない〟〝自分が出なくても誰か出るだろう〟位に気易く考え受け止めていたのではないかと思います。しかしいずれにせよ、事実は一人の出席者もなかったのであり、ここに大きな問題のあることを痛感しています。これには信州人の〝お山の大将おれ一人〟の風土的性格も出ているように思われますが、こうしたものをふまえて、よりおおらかな、自分の意見をしっかと持ちながら他の意見を謙虚にきき、改むべきは改め、発展すべきは一層発展させようとする対話の精神の育成に心がけなくてはならぬと考えています。そして、私は生徒諸君が気軽に先輩の門を叩き、よろこんで意見や助言をいただく明朗な線の太い青年を育てたいと思っています。先輩の皆さんの叱咤激励をお願い申し上げます。」

まさに六文銭の部将

上田染谷丘高校教頭　前島三郎

昨秋十一月上田高校同窓会関東支部の矢島幹事長さんをはじめ、幹事のお歴々十数名が新装の香も濃い染谷丘高校を訪問された。この事は既に本校同窓会東京支部総会の席上、来賓として参列されました稲垣支部長、矢島幹事長さんから御連絡がありましたので、心待ちにしていた事でした。

この日は信濃路特有の寒々とした空に、窓越し遥か美ケ原、八ケ岳の連山は既に雪化粧して冬の間近を告げていました。

ようこそお出で下さいました。かって上中健児の驍名を馳せた面々と聞き及んでいましたが、聞きしに勝る驍将闘士の面目躍如たる風貌、言動、まさに当千の意気、頼もしき限りでありました。今、首都にあって政治、経済、文化と社会のあらゆる面に縦横に活躍されている両々、白髪霜頭のかげかすかにみられるも、その面魂誠に六文銭の部将に彷彿たるものありこれがかって、上中の破壁をいただき松尾の松風に胸を張り濠の水面に紅顔をうつして声高らかに青春を謳歌し、又ひそかに上田高女の才媛が海老茶の袴の裳裾をはらう微風に代りたい思いに海野町を徘徊した少年の思い出を数十年後の今に残して懐しい？上田高等女学校を訪ねられたと思われるが、当時の校舎も校名も変った今、何を感じられたか。

尤も異郷にあって故郷を偲ぶは人の心情、古今に通ずる常であります。ましてや幼なじみの兄妹校の同窓ともなれば心の動きも又格別。校舎、校名が変ろうとも昔の思いを偲んで訪ね、訪ねられ交誼を深められる様は、まことにほほえましくも心暖まる快挙であると思われます。

最後に上田高校同窓会関東支部の皆様が愈々御発展ありますように、又再度御来校ありますことを祈念して筆をおきます。

防爆電気工事・計装工事
電気加熱工事・一般工事
設計・施工
昭和電機工業株式会社
取締役社長　浦　龍利
取締役総務部長　中山順蔵（35期）
本社　東京都港区東新橋2—7—3
TEL（433）3271（大代）
出張所　千葉・鹿島・横浜・大阪・岩国・其他

東京 農林年金会館
憩…宿泊室（和・洋127室）
幸…結婚式場　衣裳室・美容室　理容室・写真室
宴…大ホール（500名収容）
大小宴会場・食堂・グリル
話…大・小会講室
階段研修室等料理教室
東京都港区芝西久保巴町36—1
東京 03（432）7261
（地下鉄・日比谷線・神谷町下車二分）

高級婦人ニット製造卸
株式会社
エバロン
代表取締役　馬場武彦（54期）
本社　東京都港区西麻布4—11—7
秀和西麻布レジデンス・102
TEL 404—6516
工場　長野県上田市大字上塩尻26
TEL 02682—2—1624

全酒類・調味料
業務店専業酒問屋
きっと、お店の御繁栄に一役買わせて頂けると存じます。下記へ御用命の程お願い申上げます
株式会社角田商店東京支店
（本社・長野）
東京都台東区東上野5—24—10
TEL（844）0511・0501

藤沢一郎君急逝す

君の急逝をいたむ

昨秋十一月七日（金）午後七時二十分、藤沢一郎君（五十四期幹事）は、国電荻窪駅ホームより落ち貨物列車にひかれ大腿部切断、同八時五十分出血多量のため急逝された。事故は現場の状況や目撃者の話等から、同君が乗っていた電車から急いでとび飛りたため、その勢いで幅の狭いホームを通り越して反対側の線路に落ちたものと判断される。葬儀は十三日（木）午前十時三十分より自宅において行われ、遠く仙台在住の友人等もまじえ約三千名の同期生が参列した。事故の状況から、本人自身の不注意と不運は別として、最後部のためにホームの巾が狭く、かつ照明が暗かったのが大きな一因であったと思われる。

遺族は未亡人と三才と二才の男児、及び藤沢君の母堂（上田市在住）と祖母の五名である。葬儀当日、遺児のため寸志を差し上げると共に、一同今後の助力を惜しまない旨、遺族にお伝えした。何かの折には同期諸兄の協力を願う次第である。

明朗な人物、沈着で温和な後輩藤沢一郎君であった。それが列車事故で急逝されたという、寝耳の水の驚ろきであった、同期の（54）小市則夫君からの悲痛な電話だった。

その十一月八日の風は肌寒く一瞬我が耳を疑がいつつ強く問い正したことを覚えている。

近くこの十四日に幹事会があり藤沢君からの返信には出席と○印がしてあったのに……唯感無量であった。

藤沢君の冥福を祈ると共に遺族の方々の強く生きられん事を願うものである。

（54期同期生・小市　則夫）

思えば関東支部が発足して、昭和三十七年の第二回大会が計画されたとき、第五十四期生を代表した深町勝男君とともによく協力してくれた明るい青年だった。当時の幹事のなかでは最後輩の第五十四期幹事であった。そして第二回第三回大会と引続いて私や（44）柳沢広君とともに大会の進行係りもっとめてくれた。いつも明るく、微笑を浮かべての卒先行動は、つねに周囲を明るくしてくれたものである幹事会のあと、天下国家を論じて杯をかたむけた論議も今は悲しい想い出として私の心を打つ良き同窓のよき後輩であり、真実将来有望な好青年であったのに、唯々一郎君の死がいたまれて残念でならない。

しかし彼を知る同期の友びとたちが小市君の急報によって急拠三十名も集り、その霊前に彼のめい福を心から祈られたということは、藤沢君を敬愛した美しい友情のあらわれであり、また彼の死をどんなにか惜しみ、彼の人格を物語る一端でもあったと思う。

葬儀にも行かねばならなかった私であったが、どうしても他用で当日行けず、日を経て小市則夫君と同家を弔問した。無心に遊ぶ藤沢君の遺児をみて胸も一杯になった。あまりにも早逝の彼の生涯に対し小市君とともに私は一郎君の霊前に、ただただそのめい福を祈りつつ彼の遺影と語っていた。

長年幹事としてもつくしていただいたことにあらためて感謝をささげ遺族様方に対し、紙上からも今後のご健勝を心からお祈り申し上げる次第である。合掌（幹事長・31期・矢島五郎）

関東支部
各期代表幹事について

本会の幹事総数は現在１５０名である、昭和33年に開催された第一回関東支部大会（当時は東京大会と呼称）の幹事全員が少か拾数名であったことを思えば、感も一入と深いものがある

幹事の任期は三ケ年であり、現在の幹事の任期は明年、昭和46年３月をもつて任期完了ということになる、各同期会も本年の春秋にわたりそれぞれ開催されることと思われるので、今から心掛けられて、明年度よりの各期代表の新幹事を推せんしていただきたい。

（詳細については今後の幹事会にて計り、現各期代表幹事を通じ会員諸氏えお伝えしたい）

関東支部幹事氏名一覧表

昭和45年４月１日現在（150名）

5　宮下　寿
9　古松　国幹
15　桂　敏夫
　小林　幹雄
13　志摩　亮平
　馬場　友義
14　稲垣　征夫
　荻原　貞雄
16　宮川　義治
17　掛川　俊二
18　滝沢　長夫
19　井出　俊一
　今井　斌
　布施　信夫
20　石井　保
　三井　治郎
　吉井　道教
　和田　斉
21　島田　次郎
22　柳沢　正春
23　大森　頼雄
　小山　正雄
24　石川　秀敏
　小林　運美
25　市川　準一
　鳥海　辰雄
　馬場　長市
26　酒井　諭一
　宮入　正道
27　古沢　精吉
28　坂井　実雄
　吉田　為雄
29　井村　薫
　鎌原　義則
　吉川　数馬
　六川　善一
30　尾台　三吉
　小泉　信好
　小山晴之助
31　土屋　学
　宮坂　三吉
　矢島　五郎
　柳　達雄
32　高見沢澄平
　中村　礼三
　水科　正
33　飯塚　茂男
　土屋二三男
　橋本　利政
　弘世　弘信
34　佐藤　祐三
　島川吉兵衛
　島津　俊治
　清水　宜人

35　石井　暢
　滝沢　正
　花岡　櫂
36　伊藤寿士良
　皆藤　義久
　神野　勝男
　田中　六郎
　深井安児夫
　丸山　英人
37　小木曽　進
　関　邦雄
38　岩下　運雄
39　長藤　勝
　松岡仁太郎
40　石木　林
　井本　公一
　荻原　愈
　小林　郷司
　丸山　英一
41　清水　栄一
　古松　彰
　宮下　俊夫
　母袋　信吾
42　浅野　敏正
　土屋　賢一
　横山誠之助
43　上野　敏雄
　小林　勇
　西川　文美
44　星野　賢造
　柳沢　広
45　春原　新作
46　丸山　浩一
　井出　周利
　加藤　文郎
　小山　邦朋
　牧内　操
48　入山　一徳
　小木曽　誠
　清水　卓
　西沢　博淳
　堀内　健
　柳沢　芳彦
49　池田　達
　上野　高明
50　井出　藤寿
　児玉　忠雄
　小山洋之介
　関　継
　半田収一郎
　間庭　秀人
　新井　嘉明
51　熊木　恒夫
　永井　洋司
　早川　正範
　村田　寛
52　青柳位紗男
　荒井　元雄

上原　住和
浜村　好宏
町島　元善
53　井沢　保
　須田　武久
　山本　一夫
54　伊沢多喜男
　小市　則夫
　土屋　晃一
　馬場　雄二
　深町　勝男
55　関　五郎
　成沢　祐介
　羽田　宏
　町島　正敏
56　神津　進
　清水　英紀
　清水　義幸
　羽田　正富
　堀内　幸
57　井出　正紀
　内田　富裕
　林　正夫
　山浦　有二
58　赤池　三男
　笠井　映夫
　川村　英紀
　林　嘉市
　堀内　和
59　内久根克彦
　林田　茂喜
61　池田　芳彦
62　小田　実子
　工藤　誠子
63　田中　雄光
　古川　敏明
　三井　恭司
　矢島　勝憲

役員幹事

支部長	⑭	稲垣	征夫
副支部長	㉑	島田	次郎
	㉓	大森	頼雄
	㉘	坂井	実雄
監事	⑨	吉松	国幹
	⑳	吉井	道教
	㉛	矢島	五郎
	㊱	神野	勝男
	㊵	小林	郷司
	㊼	牧内	操

本号編集委員兼、今大会準備委員

委員長	㉘	坂井	実雄
委員	㉚	矢島	五郎
	㉝	花岡	勝男
	㊱	神野	一郎
	㊿	半田	収
	⑤①	村田	寛
	⑤⑤	成沢	祐介
	⑤⑦	内田	富裕
	⑥③	三井	恭司
会計	㊵	小林	郷司
	㊼	牧内	操

社団法人・上田高校同窓会
「関東支部」のあゆみ　<3>

日月のあゆみは速い。会報「うえだ」もその第三号の発刊をむかえ、関東支部大会は第九回目を迎えんとしている。

今回この大会が開催されるまでには、長年月に渉る先輩後輩の、相扶け相寄ってこの会を育てきた長く尊い歴史があった。

昨春の創刊号発行以後は、詳細にわたりあらゆる角度から本会の発展の過程が記録として会報に残されてゆくことであろう。

しかし創刊号の発行以前における本会の歴史は、断片的の記録としてはあったが一貫して本会の記録としては、くわしく残され、綴られていなかった。そんなところから、この関東支部のあゆみが、遠い日の想い出をたぐりながらも記述され、残されねばならないものと思って綴ることにした次第である。

×××　×××

創刊号においては、（23）大森副支部長が、年次的に本会の歴史の大要を記された、第二号において私は、想い出を加えつつ更にそのあゆみを回想してきた。前号までの記述の大要は、

（一）昭和三十三年四月に、打って一丸とした、第一回大会が開催されたこと。

（二）その翌年始めて関東地区在住者の名簿を作製したこと。

（三）長らく御病床にあらわれた第一代支部長（10）宮入清四郎先輩が三十六年二月に御逝去され、その後第二回大会が三十七年四月に開催されるまで丸四ヵ年間の空白があったこと。

（四）ようやく昭和三十六年二月に再び大会開催の声上り秋中半に幹事再編成がなされ、各期代表幹事三十五名がえらばれたこと。

（五）その年、第二代支部長に（7）清水菊三先輩が就任され、顧問として（8）勝呉稔先輩の御就任があったこと。

（六）各期代表幹事の団結と和合そして幹事各位の本会に対する熱情の片々を寸述したこと、以上がその大要であった。

×××　×××

本号において、折角に昭和三十三年四月に第一回の支部大会が盛大に開催され、翌年三十四年四月には「東京支部」としての苦心してまとめた名簿さえ出来たのにそれから第二回大会のひらかれるまでの三十七年四月まで、丸四ヵ年間の空白の年月をなぜに過さねばならなかったか、そしてその四年間が何の活動もなく全くの空白時代であったのかなかったか、その間の事情について簡述したいと思う、これも本会の歴史の一駒としてみていただきたい。

第一回大会は非常な盛会であり来賓には、既に御高令であらわれた大先輩であり恩師でもあらわれる（1）小泉清児先生を御招待申し上げ、九段会館で開催された。努力した幹事は全期を通じ二十名であった。

会合も熱気を帯び感激の情景がそこここでみられた、場内から声あり、「幹事この会は毎年やれ」と感謝の会合であった、そして当時の「第一回東京支部大会」報告記も小冊子として数度の幹事会の報告も兼ねてまとめ今後の大会の参考にもとしたのであった。今にして手取るも尊くなつかしい記録である。

それにしても空白才月があったことは幹事数の余りにも少数であったこと、ただ年一度の同窓大会をひらくためには、繁く幹事会の会合も必要としなかったことに大きな原因もあったのかと思われる（10）宮入支部長も大へんお気になされておられたが、それ大会を開催しろといっても、中々簡単にやれるものでもない、第一回大会をひらくのに一ヵ年の才月と数回の準備委員会がひらかれてようやくに開催されたほどである。

要は各期をまとめてくれるそれぞれの期の熱心な代表幹事の糾合が先決の問題であらねばならなかったと思う。しかし空白の四ヵ年とはいえ決して幹事一同も無為にすごしていたのではなかったことをここにおったえしたい。

宮入先輩から幹事数名に御連絡があり、母校学校長先生始め諸先生方も御上京されて在京同窓生各位にお願いなどあるからと、至急に集合してほしいとのお呼出しにあずかったのは、昭和三十五年一月であった、なぜに私などが呼出されたのか、分らなかったがとにかく一年ぶりに出席してみた。

それからが大へんな幹事諸氏の活躍があったのである。

次の第二回大会が開催されるまでに努力された当時の幹事諸氏の想い出など加えて、次号に綴りたいと思う、大会は四ヵ年もひらかれなかったが、この間の幹事の会合打合会はまた実に多く、よき先輩後輩の交りを得たことは実に尊かった。そんなエピソードも加えて以下は次号にゆづらせていただきたい。

（幹事長・31期・矢島　五郎）

▽同期会情報△

49期の会

二月十日（火）夜、新宿小田急百貨店宴会場で小松正一先生を迎えて三十五人が出席しスパルタ懐旧談に花が咲き盛会に次を約す。

（世話幹事　池田　芳彦）

48期の会

四月二十五日（土）午後、東京農林年金会館に四十六名も集る。荒井久作先生、竹内敬太郎先生中村六男先生に矢島幹事長のゲストを迎え、校歌、応援歌の大合唱で大賑わいで先生方も非常なお喜び様だった。

（世話幹事・清水卓・堀内惇）

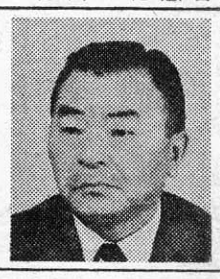
編集後記

編集委員長（28）坂井実雄

学園紛争の続いた昨年でした、世論も強く学校の在り方を注目した年でもありました、そうした年に我々　関東支部におきまして会報「うえだ」の創刊号が出されました、編集委員諸氏の熱情には頭の下る思いを度々しました。

各期代表幹事の幹事会、支部大会等は他にみられぬ和合と楽しさがあります、それらを伝えることも一目的として会報が発行されたわけであります。

幸いに編集委員諸氏の努力と会員各位の強力な御支援を得まして本日ここに第三号も無事発行出きましたことは、どんなに大きなよろこびであるか計り知れません。



第一面に御案内の如く第九会関東支部大会のお知らせも載せまして、この会報の成果とともに今大会の盛会を祈っている次第であります、数回の編集委員達の打ち合わせ会や個々の連絡奔走の日夜、願わくば会員各位の御高察も賜わりまして今大会もより一層に盛会としていただきたく望んでやみません。

御多忙の中を御寄稿下さいました各位に対し心から厚く御礼申し上げますとともに、広告の御協力を心よく御引き受け下され本紙の発行に何んの不安もなく御支援賜わった各位に対し深謝申し上げ、各位の御発展をお祈り申し上げる次第であります。

次号第四号は本年十一月に発行の予定でありますので今から随時同窓各位の御寄稿を事務局宛にいただきたく存じます。特に各期の会合情況など簡単で結構ですから御一報下さい。

篤志寄附として編集に第三十五期のお二方より御寄附いただきましたことは誠にありがたく、ここに厚く御礼申し上げます。

又、本号編集に57期と63期の若い二君が参加してくれ非常に力強く喜ばしい次第で益々会報の充実を大いに期するものであります。

郷土の味を贈りましょう
信州味噌　極醸
山吹
信州味噌株式会社
本社／東京都新宿区下落合1—523
工場／長野県小諸市甲２９０５

音楽ならSD。
記録なら120。
広いダイナミックレンジと豊かな音量のSDカセットテープ。音楽の録音ならSDテープのほかにありません。また1巻で往復2時間の録音再生ができるC-120の登場で、議事録や情報の長時間記録にたいへん便利です。
TDKカセットテープ
C-30F——330円（録音時間往復30分）
C-60F——500円（録音時間往復60分）
C-90F——800円（録音時間往復90分）
C-120——1,300円（録音時間往復120分）
SDC-60F——650円（録音時間往復60分）
SDC-60——850円（録音時間往復60分）
SDC-90——1,150円（録音時間往復90分）
エレクトロニクスを家庭へ学校へ産業へ
TDK
東京電気化学工業株式会社
東京都千代田区内神田2-14-6
〒番号101 ☎256-6111（大代表）

自動車の総合デイラー
運輸大臣認定優良整備事業者
東京陸運局長指定事業
第一種民間車検場
日本自動車総合販売株式会社
代表取締役　小市英一
営業部長　小市則夫（54期）
本社営業所　東京都練馬区貫井4—47—43　TEL　990—2262㈹
文京営業所　東京都文京区白山5—14—3　TEL　946—1401㈹